

# 芸備線再構築に関する調査事業(調査事業A) 最終報告

---

令和7年3月26日

国土交通省 中国運輸局

## 実施項目①～③の実施結果は以下の通り。各項目の詳細については後掲

実施項目	実施概要	実施結果
<p>1</p> <p>必要なデータの収集 (公開情報と構成員保有データの収集)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「必要なデータ」として位置付けられているデータの網羅的な収集。</li> <li>統計等から収集が困難なデータについては、②住民・来訪者アンケートより追加収集。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開情報または構成員保有データ、②住民・来訪者アンケートより、計36項目の「必要なデータ」を収集し、③総合的な分析に反映。</li> </ul>
<p>2</p> <p>関係者からの 意見聴取の実施</p>	<p>沿線住民・来訪者への アンケート調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸備線沿線地域住民へのアンケート調査。</li> <li>芸備線沿線地域へ来訪したことのある観光・ビジネス客へのアンケート調査。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民アンケートは、紙・Web形式併用で2月前半に実施。有効回答数は計2,009件。</li> <li>来訪者アンケートは、Web形式で2月中旬に実施。最終回収数は計619件。</li> </ul>
	<p>地域の団体等・事業者 へのヒアリング調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸備線沿線地域の商工会議所・商工会・観光協会・その他地域団体等に対するヒアリング調査。</li> <li>芸備線沿線地域に事業所を有する交通事業者に対するヒアリング調査。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月下旬から3月上旬にかけて、2市の地域振興団体等計38団体、交通事業者計11事業者に対してヒアリングを実施。</li> <li>団体・事業者等の地域や属性を鑑み、単独・グループヒアリングやワークショップ等複数の形式を採用した。</li> </ul>
<p>3</p> <p>収集したデータ等を活用した現状把握と 総合的な分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集したデータや地域関係者意見をもとにした芸備線沿線地域の現状把握。</li> <li>沿線地域で実施可能性のある、芸備線利便性向上もしくは地域活性化のための施策の立案。</li> <li>上記施策案における費用と施策効果の試算。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①で収集したデータ36項目の個別分析を実施。</li> <li>①・②で収集・分析したデータ等をもとに、芸備線の定量的・定性的価値の取りまとめ、沿線地域の課題抽出を実施。</li> <li>上記を踏まえ、今後実施可能性のある施策案を7つ提起し、各施策案の費用と施策効果を試算。</li> </ul>

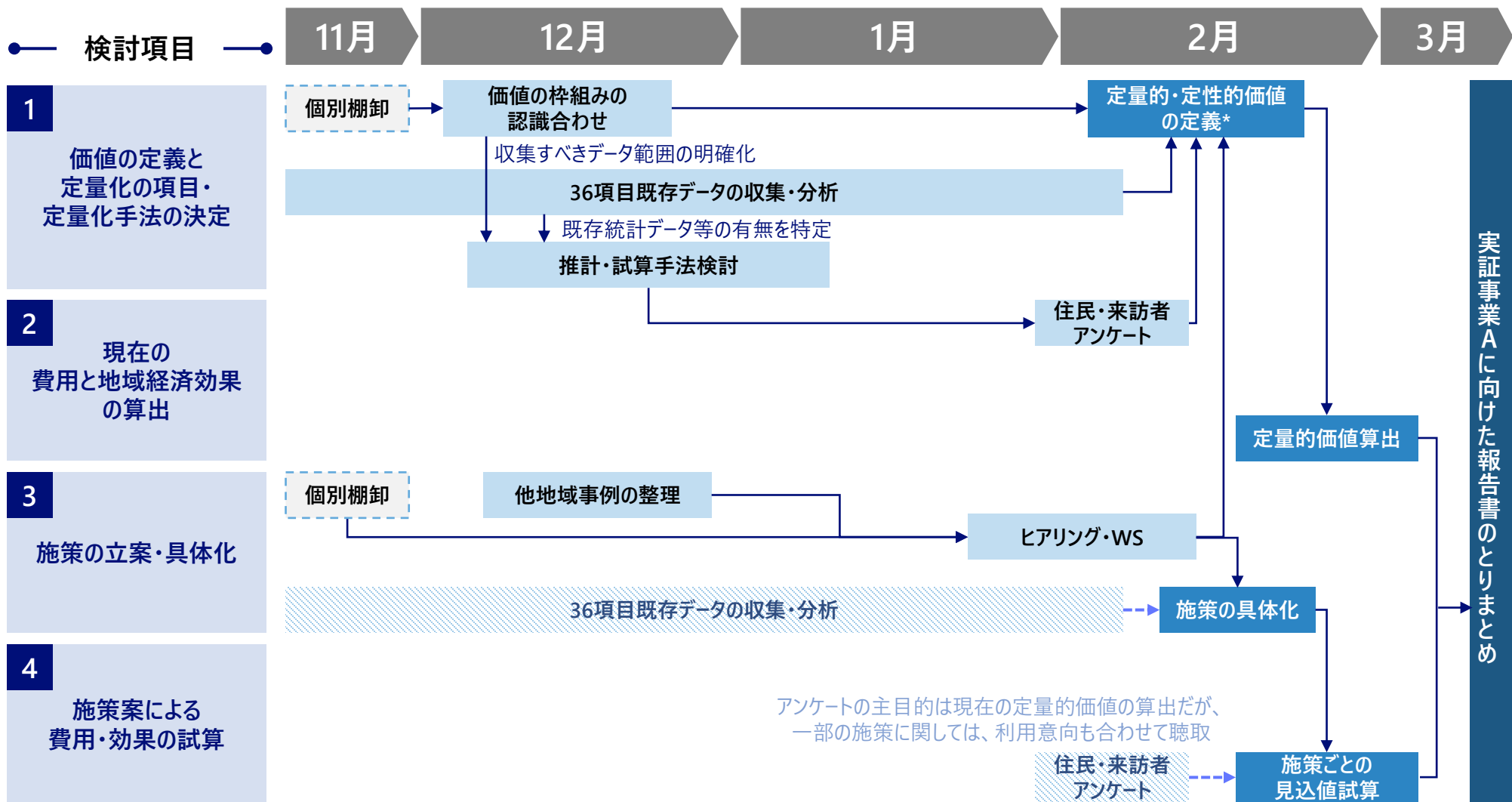
## 実施スケジュール

アンケート・ヒアリングは1月中旬までに各種調整を行い、1月下旬～2月で調査を完了。  
データ36項目個別分析の結果も踏まえ、2月下旬以降、現状把握と総合的な分析を実施した

	2024			2025		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会・幹事会	▲ 第2回協議会		▲ 第3回幹事会	▲ 第4回幹事会		▲ 第3回協議会
1 必要なデータの収集	委託先でのデータ収集、構成員とのデータ授受・確認					
2 沿線住民アンケート	配布対象地域・調査票の擦り合わせ		配布事前準備 (地域への事前周知・郵送等)		調査票配布 (回答期間)	回収・集計、 結果取りまとめ
来訪者アンケート	調査票案の作成			調査票の擦り合わせ Web画面の作成	実査	集計、 結果取りまとめ
地域へのヒアリング	ヒアリング対象、聴取項目の擦り合わせ		実施日時・形式の調整		調査実施	結果取りまとめ
3 現状把握と総合的な分析	データ36項目の個別分析			データ36項目、アンケート・ヒアリング結果を踏まえた 現状把握と総合的な分析		

## 進捗状況

データ分析やアンケート・ヒアリング等から、芸備線の価値を含めた地域の現状を把握するとともに、今後実施可能性のある施策の具体化ならびに施策実施時の費用・効果試算を実施した



## 1. 必要なデータの収集

2. 関係者からの意見聴取

3. 現状把握と総合的な分析

## 36項目個別の実施状況（1 / 4）

### データ36項目ごとの収集・分析状況は以下のとおり

- ：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案の基礎データとした項目  
 ◎：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案に主に活用した重点項目

分類	#	データ名	分析対象*	分析に用いた主要元データ・出所	実施結果	総合的な分析への活用
地域の現状	1	庄原市・新見市の人口推移	沿線地域（全線）	・ 国勢調査（市町村別・年齢階級別人口）（H12年～R2年度分）	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	2	庄原市・新見市の将来推計人口	沿線地域（全線）	・ 国立社会保障・人口問題研究所（市町村別・年齢階級別人口）（2023年推計）	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	3	庄原市・新見市のまちづくり計画	沿線地域（広義）	・ 庄原市・新見市の長期総合計画・都市計画・立地適正化計画・地域公共交通計画	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	4	庄原市・新見市の病院立地・企業立地状況	沿線地域（広義）	・ 庄原市・新見市の地域公共交通計画 ・ 内閣官房「地域経済分析システム RESAS まちづくりマップ」	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	(4)	(参考) 庄原市・新見市の経済・産業の状況	沿線地域（広義）	・ 広島県・岡山県「市町民経済計算結果」(R3年度) ・ 総務省「経済センサス- 活動調査 (H24,28年、R3年)」	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	5	庄原市・新見市の通院・通勤手段	沿線地域（狭義）	・ 国勢調査（定住地・就業動態別の通勤・通学手段） ・ 沿線住民へのアンケート調査	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	6	芸備線沿線の人口分布	沿線地域（狭義）	・ 内閣官房「地域経済分析システム RESAS 人口マップ」	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	7	芸備線沿線の道路整備状況	沿線地域（広義）	・ 広島県「広島県の道路2023」 ・ 岡山県「おかやまの道路2023」 ・ 国交省「地域高規格道路指定路線図」（2024年）	収集・分析済み（構成員確認中）	○
8	芸備線沿線の学生数の将来推計	沿線地域（狭義）	・ 庄原市・新見市の沿線学生数データ（2市より提供） ・ 国立社会保障・人口問題研究所（市町村別・年齢階級別人口）（2023年推計）	収集・分析済み（構成員確認中）	○	

\*分析対象について、「沿線地域（広義）」は庄原市・新見市の全域を、「沿線地域（狭義）」は庄原市庄原・西城・東城地域、新見市哲西・神郷地域、上市・西方地域の一部を指す。5

## 36項目個別の実施状況（2 / 4）

### データ36項目ごとの収集・分析状況は以下のとおり

- ：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案の基礎データとした項目  
 ◎：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案に主に活用した重点項目

分類	#	データ名	分析対象*	分析に用いた主要元データ・出所	実施結果	総合的な分析への活用
地域の現状	9	駅周辺の拠点地・目的地	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本「普段の外出と公共交通に関するアンケート調査」</li> <li>沿線住民へのアンケート調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	10	主な観光地への交通機関別利用データ	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者（観光・ビジネス）アンケート</li> <li>広島県観光連盟「広島県観光客数の動向」</li> <li>岡山県産業労働部「岡山県観光客動態調査報告書」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	11	芸備線の区間別平均通過人員	全線	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本保有データ「平均輸送人員・列車キロ」（1990年～2023年）</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	12	観光地・拠点地における消費単価	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者（観光・ビジネス）へのアンケート調査</li> <li>広島県観光連盟「広島県観光客数の動向」</li> <li>JR西日本「庄原ライナー乗客インタビュー・アンケート調査」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	(12)	(参考) 庄原市・新見市の観光動向	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光庁「宿泊旅行統計調査」</li> <li>観光庁「インバウンド消費動向調査」</li> <li>広島県観光連盟「広島県観光客数の動向」</li> <li>岡山県産業労働部「岡山県観光客動態調査報告書」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	13	芸備線の新たな役割や価値	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域団体等へのヒアリング調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
移動特性やニーズ	14	庄原市・新見市の交通分担率	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民へのアンケート調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	15	庄原市・新見市の公共交通利用ODデータ	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島県「モビリティデータ連携基盤」</li> <li>岡山県パーソントリップ調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	16	運転免許証返納者数とその見直し	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島県警・岡山県警保有データ</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	17	移動実態の把握（GPS移動データ）	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本提供データ「プログウォッチャー社が保有する位置情報データを加工したデータ」</li> <li>広島県「モビリティデータ連携基盤」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎

\*分析対象について、「沿線地域（広義）」は庄原市・新見市の全域を、「沿線地域（狭義）」は庄原市庄原・西城・東城地域、新見市哲西・神郷地域、上市・西方地域の一部を指す。6



## 36項目個別の実施状況（3 / 4）

### データ36項目ごとの収集・分析状況は以下のとおり

- ：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案の基礎データとした項目  
 ◎：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案に主に活用した重点項目

分類	#	データ名	分析対象*	分析に用いた主要元データ・出所	実施結果	総合的な分析への活用
移動特性やニーズ	18	公共交通に対するニーズ	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民へのアンケート調査</li> <li>地域団体等へのヒアリング調査</li> <li>庄原市・新見市の過去アンケート調査結果</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	19	商工会など地域経済の観点からみた芸備線の価値	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域団体等へのヒアリング調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	20	沿線居住者の外出頻度、目的地	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民へのアンケート調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	21	ローカル線再生事例の収集による潜在需要	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸備線類似線区におけるローカル線・地域資源等を活用した過去事例（HP等の各種公開情報）</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
公共交通の現状	22	高校生の最寄り駅・学校までの移動実態	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の高校生へのヒアリング調査</li> <li>JR西日本「沿線地域高校生の通学実態アンケート調査」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	23	芸備線沿線の交通体系	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄原市・新見市の地域公共交通計画</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	24	芸備線列車ダイヤと列車利用者数	全線	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本「2024年度芸備線乗込アンケート」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	25	芸備線沿線の芸備線以外の公共交通機関等利用状況	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄原市・新見市の地域公共交通計画</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	26	芸備線駅勢圏の人口	沿線地域（狭義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>内閣官房「地域経済分析システム RESAS 人口マップ」</li> <li>JR西日本保有データ（1km～5km圏内）</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○

\*分析対象について、「沿線地域（広義）」は庄原市・新見市の全域を、「沿線地域（狭義）」は庄原市庄原・西城・東城地域、新見市哲西・神郷地域、上市・西方地域の一部を指す。7



## 36項目個別の実施状況（4 / 4）

### データ36項目ごとの収集・分析状況は以下のとおり

- ：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案の基礎データとした項目  
 ◎：現状把握ならびに地域の課題抽出・施策立案に主に活用した重点項目

分類	#	データ名	分析対象*	分析に用いた主要元データ・出所	実施結果	総合的な分析への活用
公共交通の現状	27	沿線バス停とカバー人口率	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>国交省「国土情報ウェブマッピングシステム」</li> <li>日経ビジュアルデータ「地図で見るバス停アクセス困難者」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	28	二次交通の接続環境	特定区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線地域の公共交通事業者の等の路線図・時刻表資料</li> <li>庄原市・新見市の地域公共交通計画</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	◎
	29	P&R整備状況	特定区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本へのヒアリング調査</li> <li>庄原市・新見市へのヒアリング調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	30	芸備線沿線の道路渋滞状況	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>国交省中国整備局「中国地方の主要渋滞箇所」</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	31	芸備線の利用状況、収支状況	全線	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本保有データ（芸備線の駅別乗車人数）</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	32	芸備線沿線のバス・タクシー等の収支状況	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>国交省保有の沿線地域事業者の収支等実績データ</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	33	芸備線沿線のバス・タクシー乗務員不足の状況	沿線地域（広義）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の交通事業者へのヒアリング調査</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	34	JR西日本単年度収支・経営状況（コロナ禍以降）	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本IR資料等</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	35	芸備線の災害リスク等の将来負担	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本提供データ</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○
	36	バス・タクシー等と鉄道の連携状況	特定区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線地域の公共交通事業者の等の路線図・時刻表資料</li> <li>庄原市・新見市の地域公共交通計画</li> </ul>	収集・分析済み（構成員確認中）	○

\*分析対象について、「沿線地域（広義）」は庄原市・新見市の全域を、「沿線地域（狭義）」は庄原市庄原・西城・東城地域、新見市哲西・神郷地域、上市・西方地域の一部を指す。8

第3回協議会資料 別紙  
P.28～P.43を参照

(本紙P.5～P.8の重点項目のみ掲載)

1. 必要なデータの収集
2. 関係者からの意見聴取
3. 現状把握と総合的な分析

## 沿線住民アンケート調査 | 回収結果

2市合計3,181世帯へ配布し、1,267世帯から有効回答を回収（世帯回収率約40%）。  
1世帯内の複数回答も含めると個人有効回答数は2,009件

### 沿線住民アンケート調査の配布・回収結果

配布対象地域	配布世帯数	世帯有効回答数	世帯有効回答率	個人有効回答数
<b>新見市</b>	<b>1,182</b>	<b>522</b>	<b>44%</b>	<b>858</b>
哲西町全域	906	408	45%	676
神郷下神代全域	244	101	41%	162
上市の一部（舞尾・畑原）	11	7	64%	11
西方の一部（段・布原）	21	6	29%	9
<b>庄原市</b>	<b>1,999</b>	<b>745</b>	<b>37%</b>	<b>1,151</b>
庄原地域〔無作為抽出〕	1,147	408	36%	640
東城地域〔無作為抽出〕	400	171	43%	264
西城地域〔無作為抽出〕	452	166	37%	247
<b>2市計</b>	<b>3,181</b>	<b>1,267</b>	<b>40%</b>	<b>2,009</b>

\*上記のほか、シリアルNo.の誤記や特定区間外が最寄り駅であること等を理由とする無効回答が42世帯55名分存在。

\*新見市上市・西方については、配布・回収数が僅少であるため、地区別の集計は実施していない。（合計値にのみ反映）

第3回協議会資料 別紙  
P.2～P.3を参照

# Web形式で過去1年間での2市への訪問経験を有する人619名から有効回答を回収。 訪問内容や訪問時の消費額、芸備線を含む交通手段の利用状況等を聴取した

## 来訪者アンケートの実施結果

- 2月中旬にて、Webアンケート調査会社が保有するモニターに対してWeb形式でアンケートの配布・回収を実施。
- 広島県・岡山県・首都圏・中京圏・関西圏居住者 計29,989人のうち、2市への訪問経験を有する人 計619名から回答を回収。

### スクリーニング調査



### 本調査

調査対象

広島県、岡山県、首都圏、中京圏、関西圏居住者  
(有効回答数：29,989件)

聴取事項

- 回答者の属性（性別、年代、職業、居住地域）
- 庄原市・新見市への来訪・通過経験（過去1年間）
- （2市への訪問経験がある場合）来訪・通過地域

過去1年間に庄原市・新見市への観光・ビジネス目的での訪問経験を有する人 (有効回答数：619件)

- 訪問内容  
：訪問地、目的、期間、地域を知ったきっかけ等
- 滞在中の消費額  
：交通費・宿泊費・飲食費・娯楽等サービス費等、費目別に聴取
- 訪問地への交通手段とそれを選んだ理由
- （芸備線利用者に対して）利用した区間、芸備線を利用してよかった点と不便を感じた点、再訪可能性
- （芸備線非利用者に対して）芸備線を選択しなかった理由、利用したいと思う施策

第3回協議会資料 別紙  
P.4～P.5を参照



⑬芸備線の価値は計38の地域振興団体等へ、⑭バス・タクシー乗務員の不足状況は計11のバス・タクシー事業者へ、⑮P&R整備状況はJR西日本と2市へ、それぞれヒアリングを実施した

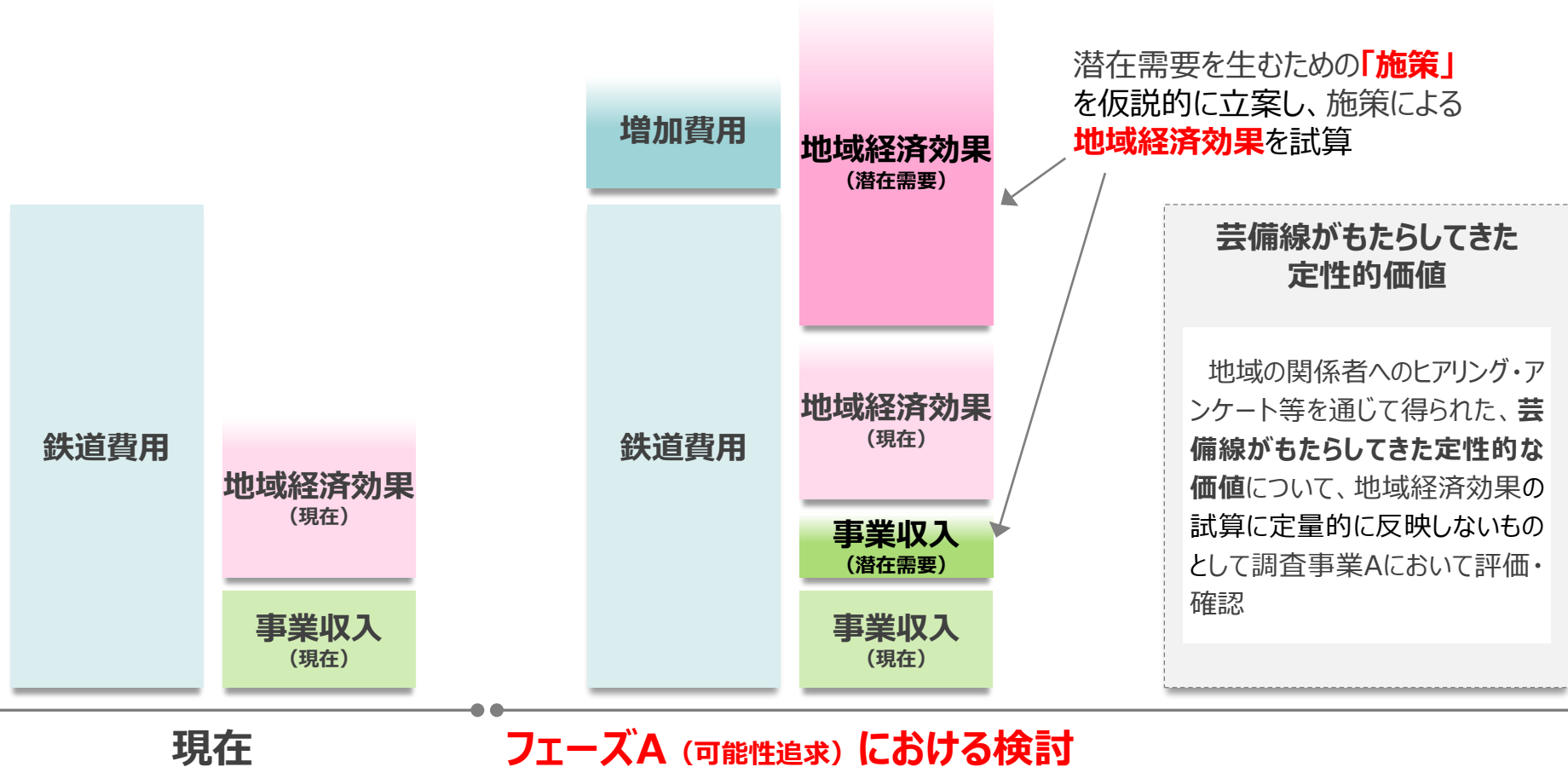
ヒアリング実施項目	ヒアリング対象	実施形式	実施期間
<p>19</p> <p>商工会など 地域経済等の観点 からみた芸備線の価値</p>	<p>✓ 特定区間自治体の各市商工会議所・観光協会・商工会ほか、 地域振興に密接に関わっている団体又はその主催者 など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庄原市：計24団体（庄原・西城・東城で複数団体等ずつ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工会議所・商工会・観光協会：計5団体</li> <li>・ その他地域振興団体等：計19団体</li> </ul> </li> <li>・ 新見市：計14団体（哲西・神郷で複数団体等ずつ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工会議所・商工会・観光協会：計3団体</li> <li>・ その他地域振興団体等：計11団体</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 単独ヒアリング</li> <li>✓ グループインタビュー</li> <li>✓ ワークショップ</li> </ul>	<p>1月下旬 ～ 3月上旬</p>
<p>29</p> <p>P&amp;Rの整備状況</p>	<p>✓ 特定区間駅周辺におけるP&amp;Rの整備主体又はその運営担当者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JR西日本 広島支社・岡山支社、庄原市、新見市 (JR西日本用地以外の駐車場の有無も鑑み、2市を追加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単独ヒアリング (書面形式)</li> </ul>	<p>2月下旬</p>
<p>33</p> <p>芸備線沿線の バス・タクシー 乗組員不足の状況</p>	<p>✓ 庄原市・新見市に事業所を有するバス・タクシー事業者/運営主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庄原市：計8事業者（庄原・西城・東城で複数事業者ずつ）</li> <li>・ 新見市：計3事業者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単独ヒアリング</li> <li>・ グループインタビュー</li> </ul>	<p>1月下旬 ～ 2月上旬</p>

第3回協議会資料 別紙  
P.6～P.27を参照

1. 必要なデータの収集
2. 関係者からの意見聴取
3. 現状把握と総合的な分析

# 調査事業Aにおける地域経済効果の試算等

- **調査事業A**において、芸備線の多様な価値の創出や鉄道の潜在需要増加につながる「**施策**」を仮説的に立案し、「**施策**」による地域経済効果を試算
- **実証事業A**において、**仮説を実証**するため、「**施策**」を試行的に実施し、効果を測定



※ただし、費用を収入・経済効果が上回る/下回るいずれの場合にあっても、フェーズAの検討のみをもって最適な交通モードの判断は行わない

## 調査事業Aにおける地域経済効果の試算

## 定量的に評価する項目

## 定量化の方法

増加費用

鉄道再構築（事業構造の変更等）  
に関する増加費用

鉄道再構築（例えば、地域交通法に基づく鉄道事業再構築事業を実施することにより、事業構造の変更（上下分離・重要な資産譲渡等）等を行うとともに、利用者利便を確保する措置）を行う場合における駅改良・先進車両導入・交通結節点整備などの費用  
（ただし、今回の調査事業Aでは対象としない）

潜在需要創出施策を実施した場合の  
芸備線営業費用等の増加分

現状の芸備線営業費用や過去の鉄道利用促進・地域活性化施策の実績値（他地域事例も含む）などを踏まえて、潜在需要創出施策を新たに実施した場合の費用増分の見込値※を試算

鉄道費用

現状の芸備線営業費用

J R 西日本が保有する実績値データを使用

※「見込値」は、施策に伴う将来数値の試算結果であり、実施する施策数や規模によって変化し得る

# 調査事業Aにおける地域経済効果の試算

考え方

芸備線そのものにとどまらず、**沿線地域のまちづくりの観点から地域を捉えて**幅広く議論することが本協議会の趣旨であることを踏まえ、今般の地域経済効果の試算は、**事業収入にとどまらず、現在/潜在需要創出により、各住民/観光来訪者による芸備線の利用が各者にどのような恩恵（便益）を与えるか、各者の利用に伴う生活/観光の消費が地域にどのような波及効果を生むか、**について金銭的価値で評価を試みるもの

## 定量的に評価する項目

## 定量化の方法

地域経済効果  
(潜在需要)

潜在需要創出施策を実施した場合の④～⑦増加分

沿線住民・来訪者アンケート調査結果や、過去の他地域事例等から、潜在需要創出施策を新たに実施した場合の利用増分の見込値※を試算

地域経済効果  
(現在)

- ⑦ 芸備線利用来訪者による消費の経済波及効果
- ⑥ 芸備線利用住民による消費の経済波及効果
- ⑤ 芸備線利用者以外（送迎者等）に対する便益
- ④ 芸備線利用者に対する便益

沿線住民・来訪者へのアンケート調査結果から、現在の便益・経済波及効果の推計値を試算

事業収入  
(潜在需要)

潜在需要創出施策を実施した場合の①～③増加分

①～③の算出結果や過去の鉄道利用促進・地域活性化施策の実績値（他地域事例も含む）などを踏まえて、潜在需要創出施策を新たに実施した場合の収入増分の見込値※を試算

事業収入  
(現在)

- ③ 他の交通手段への波及\*
- ② 鉄道事業収入（運輸附帯収入・運輸雑収）
- ① 鉄道事業収入（運輸収入）

沿線住民・来訪者へのアンケート調査結果から芸備線特定区間に該当する部分を推計

J R 西日本が保有する実績値データを使用

※「見込値」は、施策に伴う将来数値の試算結果であり、実施する施策数や規模によって変化し得る

\*「他の交通手段」とは、芸備線以外の鉄道と地域のバス・タクシー等を含む

## 芸備線がもたらしてきた 定性的価値

地域の関係者へのヒアリング・アンケート等を通じて得られた、**芸備線がもたらしてきた定性的な価値**について、地域経済効果の試算に定量的に反映しないものとして調査事業Aにおいて評価・確認

## 定性的に評価・確認する項目

▶ **地域へのアンケート・ヒアリング調査等で  
挙げた芸備線の多様な価値のうち、  
「定量化しない」価値**

## 評価・確認の方法

地域の関係者より得られた芸備線がもたらしてきた価値を項目ごとに文章で取りまとめ、構成員間でその価値の存在について合意する



## 経済効果等①・②・③の具体的な算出項目は以下の通り

経済効果等の分類	算出項目
① 鉄道営業収入 (運輸収入)	a 芸備線 (特定区間) の運賃収入  〔円/年〕
② 鉄道営業収入 (運輸附帯収入、雑収)	a 芸備線 (特定区間) の広告料、自動販売機等の営業料など  〔円/年〕
③ 他の交通手段への波及	a 芸備線が存在することで来訪した人が、新幹線や特急列車、高速バスなど他路線を利用することによる収入  〔円/年〕

## 経済効果等④～⑦の具体的な算出項目は以下の通り

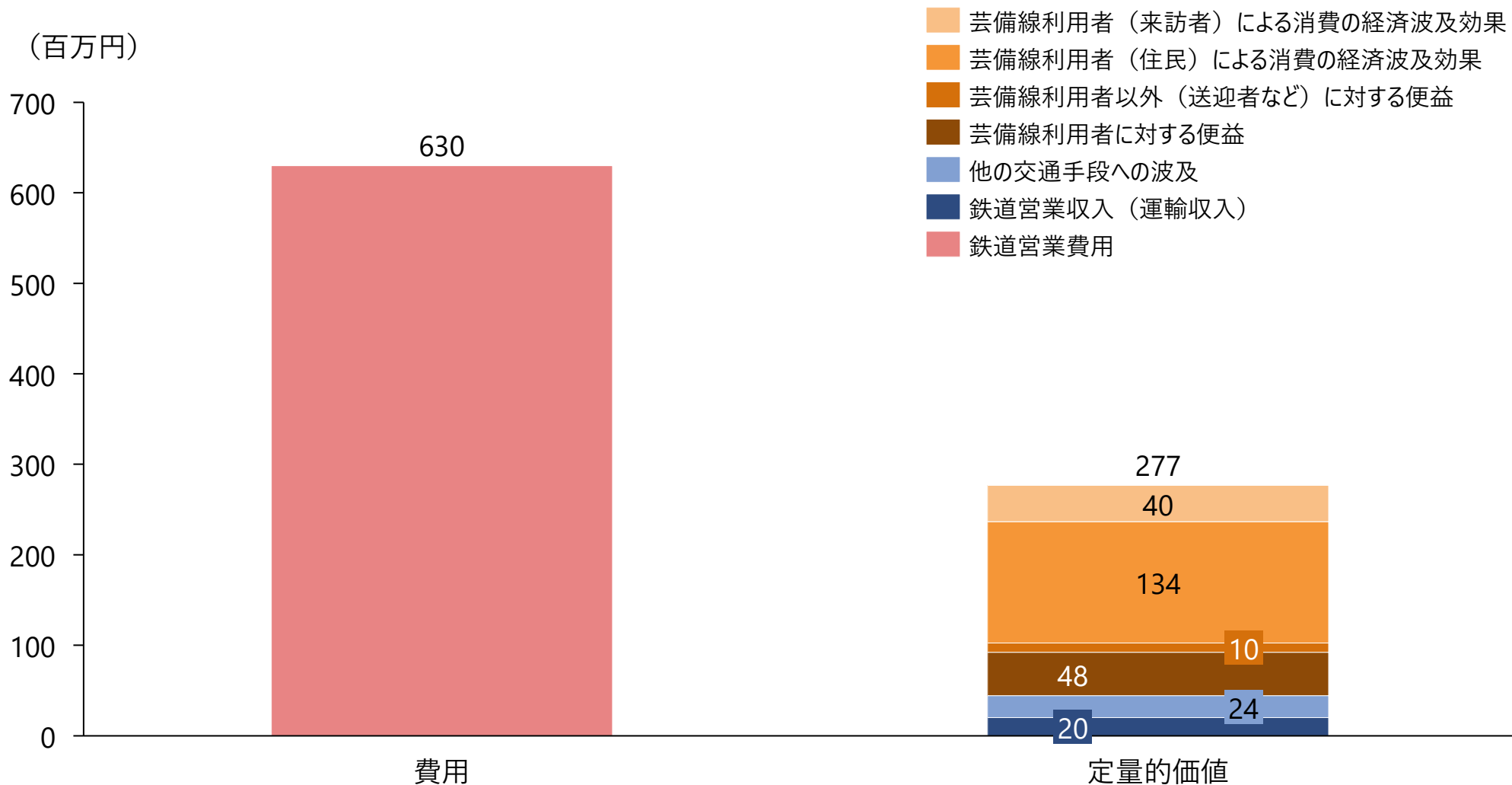
### 経済効果等の分類

### 算出項目

<p><b>4</b></p> <p>芸備線利用者に対する便益</p>	<p><b>a</b></p> <p>芸備線の（バス・タクシー等と比べた）運賃負担の違いによる便益（バス・タクシー等との運賃差）〔円/年〕</p> <p><b>b</b></p> <p>芸備線の（自家用車と比べた）運転負担の違いによる便益（自身の運転が不要となっていることによる時間価値）〔円/年〕</p>
<p><b>5</b></p> <p>芸備線利用者以外（送迎者等）に対する便益</p>	<p><b>a</b></p> <p>芸備線の（自家用車と比べた）運転負担の違いによる便益（家族・知人送迎が不要となっていることによる時間価値）〔円/年〕</p>
<p><b>6</b></p> <p>芸備線利用者（住民）による消費の経済波及効果</p>	<p><b>a</b></p> <p>芸備線が存在することによる外出/移動促進、それに伴う消費の経済波及効果〔円/年〕</p> <p><b>b</b></p> <p>芸備線の存在を理由とした定住、それに伴う消費の経済波及効果〔円/年〕</p>
<p><b>7</b></p> <p>芸備線を利用した来訪者（観光客・ビジネス客）による消費の経済波及効果</p>	<p><b>a</b></p> <p>芸備線が存在することによる観光客・ビジネス客の誘致に伴う消費の経済波及効果〔円/年〕</p>

# 芸備線特定区間の費用約6.3億円に対して、現状の定量的価値は約2.8億円と推計された

芸備線特定区間の費用および定量的価値



注) 「鉄道営業収入（運輸附帯収入、運輸雑収）」は、芸備線特定区間では僅少のため除外した

# データ分析とヒアリング結果から、沿線地域の問題を、①定住人口の減少、②交流・関係人口の伸び悩み、③地域産業の衰退、④観光産業の伸び悩み、⑤インフラの縮小に大別

## 問題の分類

## 調査事業により明らかになった沿線地域における問題の概要

1

### 定住人口の減少

- 庄原市・新見市ともに人口は減少傾向にあり、2市総人口は2020年度比で2030年に約－19%、2050年に約－47%となると推計されている。
- 若年層の流出による過疎化と住民の高齢化が喫緊の課題である。

2

### 交流・関係人口の伸び悩み

- 広島県・岡山県全体の観光客数は、インバウンドを中心として増加している一方、庄原市・新見市では自県・隣県の主要スポットへ向かう観光客を十分に引き込めていない。
- 公共交通や施設の利便性が乏しく、都会からの移住先としての魅力を十分に発揮できていない。

3

### 地域産業の衰退

- 庄原市・新見市では、総生産・総所得がともに減少傾向。企業活動も縮小している。
- 人口の減少が、働き手不足や消費低減、投資抑制など多方面に影響を及ぼしている。

4

### 観光産業の伸び悩み

- 広島県・岡山県では、観光客数はインバウンドを中心として増加しているものの、観光客の消費を捉えきれていない。庄原市・新見市では、特に宿泊による消費向上に課題がある。
- 地域横断でPRやブランディングの連携が十分にできていない点に問題意識がある。

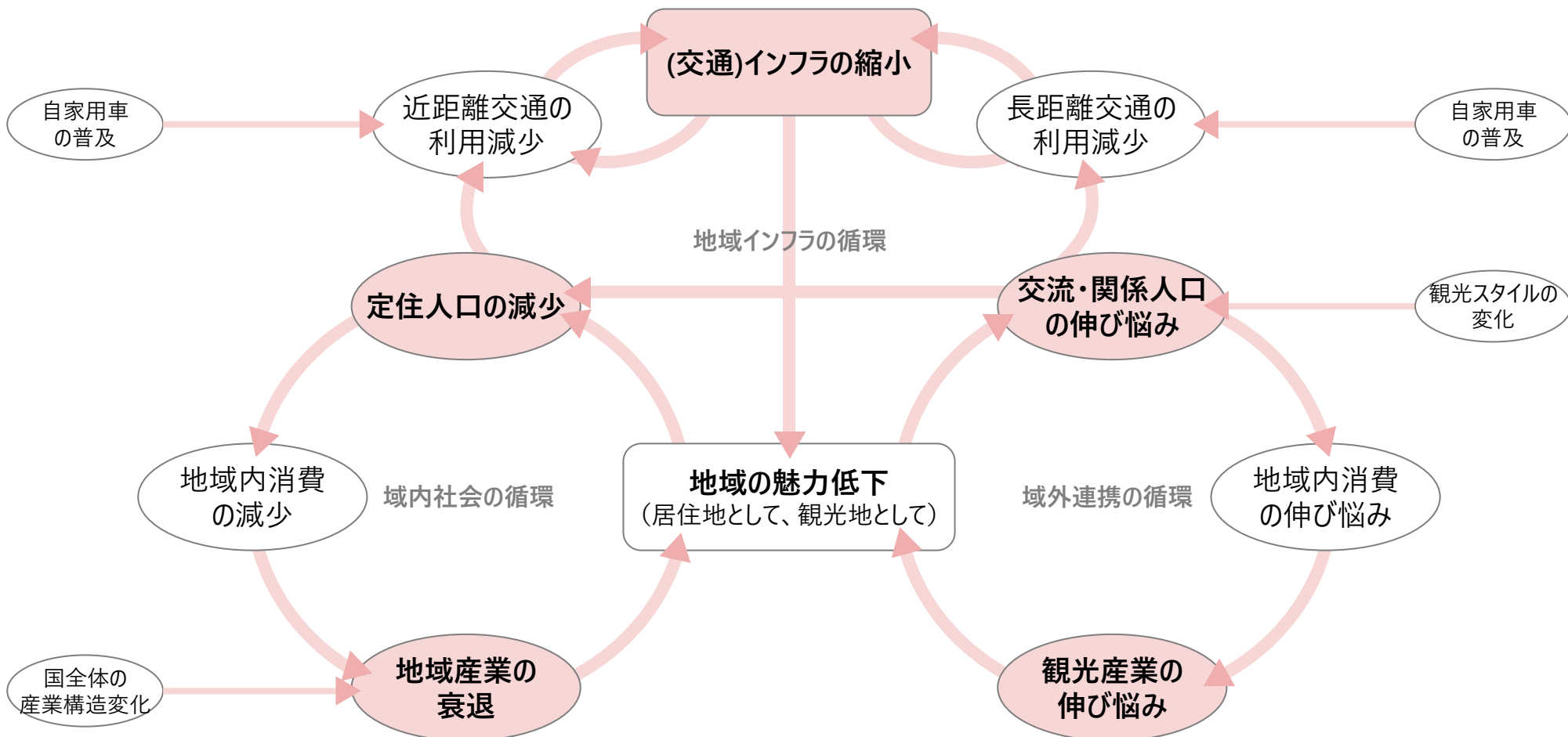
5

### インフラの縮小

- 人口減少・産業衰退に伴って、日常生活に必要とされる施設等地域のインフラが概ね不足している。
- 芸備線・路線バスともに、人口減少に伴う利用低下を踏まえて運行ダイヤ等の改変が行われてきた。
- 結果的に、住民にとって使いづらい公共交通となっており、一事業者単位では改善が困難な状況。

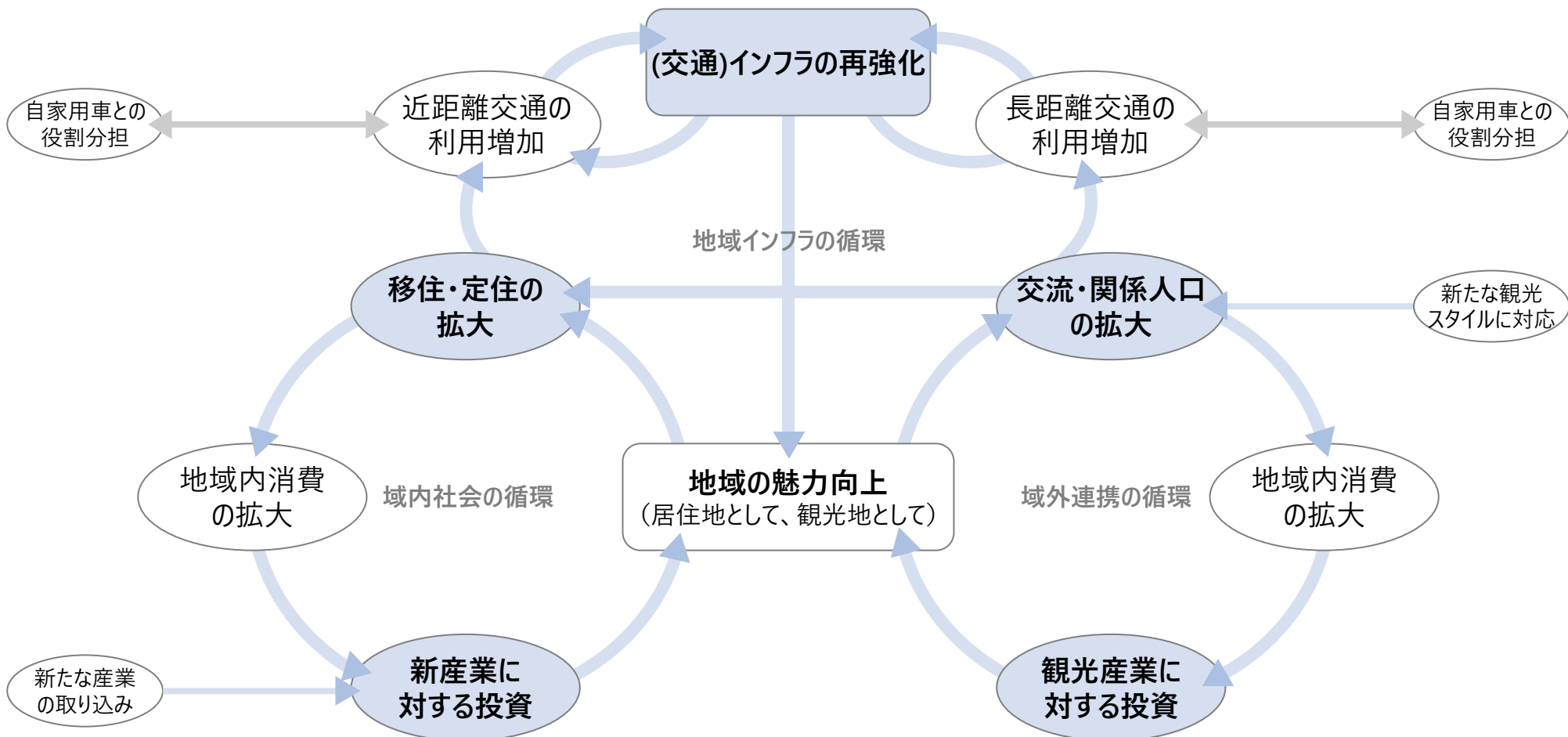
# 地域が抱える問題は、相互に関係して「負の循環」の状態にあり、 交通インフラが抱える問題は、その一部が表出したものである

芸備線特定区間沿線地域が抱える問題



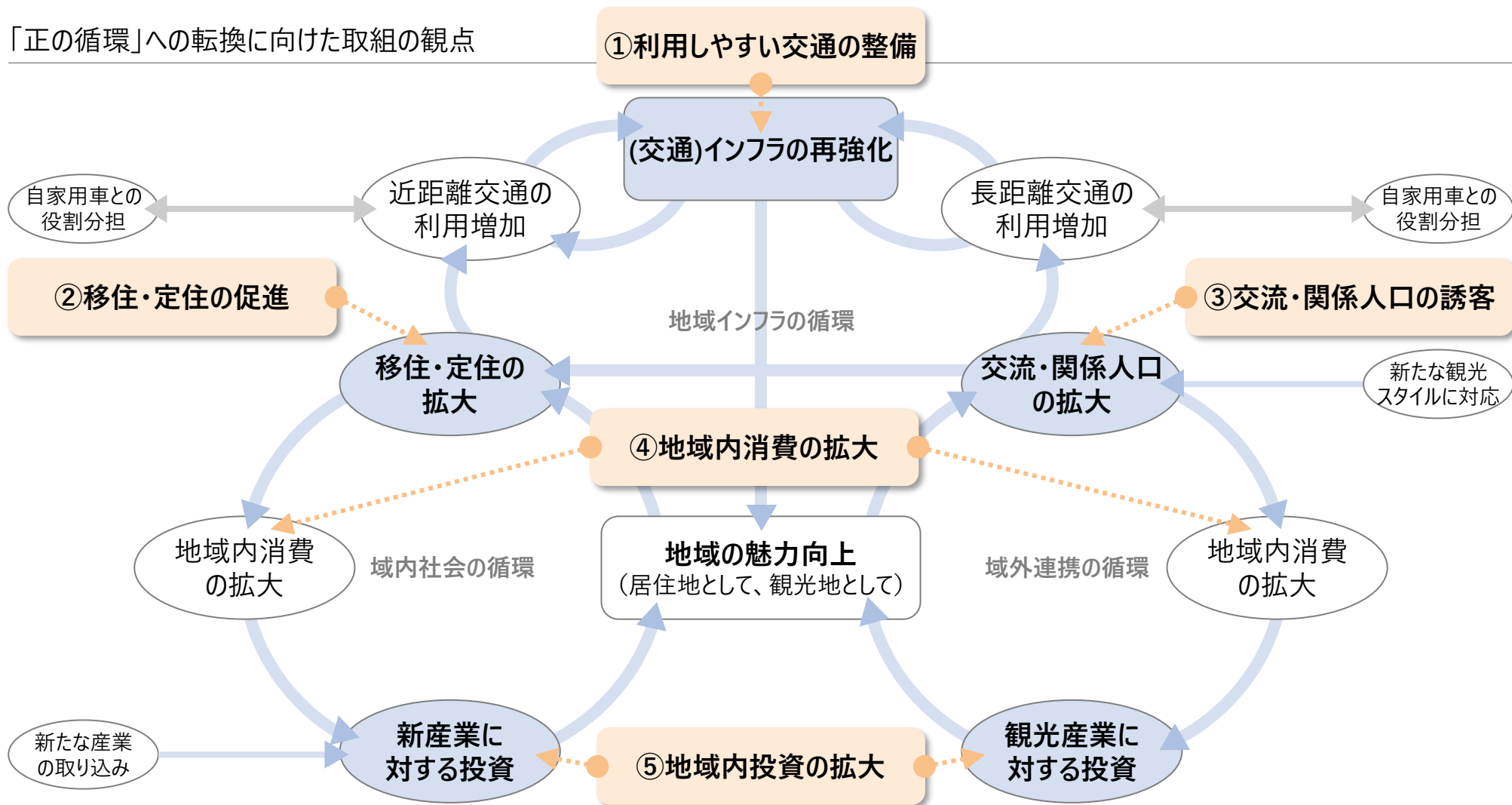
「芸備線の価値を最大限発揮した状態」とは、単に鉄道の利用振興がなされた状態ではなく、  
芸備線の価値を活かしながら、地域が「正の循環」に生まれ変わった状態である

芸備線特定区間沿線地域が目指す「正の循環」



そのためには、①利用しやすい交通の整備、②移住・定住の促進、③交流・関係人口の誘客、④地域内消費の拡大、⑤地域内投資の拡大 の複合的な実現が必要

「正の循環」への転換に向けた取組の観点





# これまでも芸備線を活用した取組は実施されたが、鉄道の利用振興にとどまる例が多く、地域の社会・経済に与える価値が必ずしも最大化されてこなかった

芸備線の価値を最大限発揮するための視点

## 理想的な取組

芸備線の価値を活かして、「正の循環」へ転換

### ① 利用しやすい交通の整備

- 芸備線と二次交通が一体的に整備され、出発地から目的地まで快適に移動ができる

### 芸備線の利用増加

- 既存の移動市場におけるシェア競争だけでなく、新たな移動需要を誘発できている

### ② 移住・定住の促進

### ③ 交流・関係人口の誘客

### ④ 地域内消費の拡大

### ⑤ 地域内投資の拡大

- 移動以外の側面でも、芸備線の価値を活かした取組が進んでいる

### 地域社会・経済の好循環

- 定住・交流・関係人口や、消費額、投資額といった、**地域の社会・経済指標を維持・向上**できている

## 現実の取組

移動手段としての芸備線の「利用振興」にとどまる

### ① 利用しやすい交通の整備

- 芸備線の増便実証、利用助成等は実施されているが、単発・期間限定の内容が中心

### 芸備線の利用増加

- 一定の利用増加は見られるが、鉄道事業という観点での費用対効果は厳しい

### ② 移住・定住の促進

### ③ 交流・関係人口の誘客

### ④ 地域内消費の拡大

### ⑤ 地域内投資の拡大

- 移動以外の側面では、芸備線の価値を活かした取組が進んでいない

### 地域社会・経済の好循環

- 地域の社会・経済の衰退が続く

## 「芸備線の価値を最大限発揮」するためには、①利用しやすい交通の整備に係る取組に加えて、他の観点に係る取組も複合的に実施していくことが必要である

「目指す姿」の実現に貢献し得る芸備線の価値

### ヒアリングで挙がった「芸備線の価値」(代表的な意見の抜粋)

#### ①利用しやすい交通の整備

- 自動車の運転が難しい人にとっては、通勤・通学・買物・通院の貴重な移動手段である
- 定時性や安全性、運行ルートの分かりやすさ、安価な運賃等の面で優れた移動手段である

「芸備線の利用振興」だけでなく、芸備線の多面的な価値を活かす施策を複合的に実施していくことが必要

#### ②移住・定住の促進

- 高校生の通学に芸備線が利用されており、芸備線の有無は高校の存続に関わる
- 鉄道が通っていることが、外部の人に興味を持ってもらうきっかけとなる
- 駅や線路の存在そのものが、生活する上での心の支えになっている

#### ③交流・関係人口の誘客

- 庄原ライナーに合わせたツアー等、鉄道だからこそ実現できる誘客の形がある
- 備後落合駅の駅舎等、鉄道自体が観光資源になる
- 鉄道があることで、車を持たない観光客(欧米インバウンド等)の誘客につながる

#### ④地域内消費の拡大

- 鉄道があることで、買物や通院を出来ている人がいる
- 鉄道があることで、運転を気にせず飲み会を楽しむことができ、飲食店の売上につながっている
- 鉄道旅行者向けに、地域産品を活かした限定商品の販売をできるのではないかと

#### ⑤地域内投資の拡大

- 鉄道施設そのものが投資対象(ネーミングライツ)になるのではないかと
- 芸備線の注目度を活かしてタイアップ・PRしたい企業を誘致できるのではないかと

# データ分析、アンケート、ヒアリング・ワークショップ、他地域事例、構成員による既存検討を インプットとして、30項目のアイデア集を整理した

## インプット

## 施策アイデア一覧

36項目データ分析

住民・来訪者  
アンケート

ヒアリング・  
ワークショップ

他地域事例調査

構成員による  
既存検討\*

類似  
アイデアの  
統合

大分類	小分類	#	施策名	主な出所
				36項目データ
				アンケート
				ヒアリング・WS
				他地域事例
				構成員検討
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	1	住居利用に合わせた列車の運行	○
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	2	来訪者利用に合わせた列車の運行	○
鉄道の運行形態改善	高速化	3	列車のスピードアップ	○
鉄道の運行形態改善	バリアフリー化	4	駅設備の充実	○
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	5	生活・観光拠点の利便性を向上させる新たな交通結節点の形成	○
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	6	住居利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	○
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	7	来訪者利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	○
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	8	駅周辺における(バス)モビリティの導入	○
二次交通との連携強化	公共交通間の役割分担	9	スクールバスとの役割分担を厘正	○
二次交通との連携強化	自家用車との接続強化	10	駅周辺の駐車場整備	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	ビジネス・教育需要の喚起	11	地域課題をテーマにした会議の誘致	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	ビジネス・教育需要の喚起	12	学校行事での芸備線利用	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	列車活用による観光需要の喚起	13	列車自体の観光コンテンツ化	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	列車活用による観光需要の喚起	14	サイクルトレインの運行	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	15	30項目のアイデア集に整理 (後述)	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	16	広域での周遊観光ツアーの造成	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	17	鉄道マニア向けの観光ツアーの造成	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	18	全国的な周遊コンテンツとの連携	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	19	地域の特産品を活用した商品開発・販売	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	20	芸備線沿線の景観整備	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー 商品開発による 観光需要の喚起	21	芸備線のPR強化	○
産業・観光分野における 芸備線の活用	目的地と連携した消費促進	22	商業・観光施設と連携した外出促進	○
拠点としての駅舎・周辺 施設の有効活用	地域の賑わい拠点の形成	23	駅施設を活用した地域の賑わい拠点形成	○
拠点としての駅舎・周辺 施設の有効活用	産業・観光拠点の形成	24	駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成	○
拠点としての駅舎・周辺 施設の有効活用	産業・観光拠点の形成	25	駅の観光拠点化	○
自治体における地域活 性化・移住定住・立地 適正化施策の推進	移住の喚起	26	鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供	○
自治体における地域活 性化・移住定住・立地 適正化施策の推進	コンパクトシティ化	27	他の生活インフラと一体となった再整備	○
関係人口の創出	投資・寄附の仕組みとの連携	28	駅や鉄道資産に対するネーミングライツの導入	○
関係人口の創出	投資・寄附の仕組みとの連携	29	ふるさと納税との連携強化	○
その他		30	貨客混載列車の運行	○

\*芸備線・庄原ワーキンググループの取りまとめ結果を含む

【参考】アイデア集 (1/4)

大分類	小分類	#	施策名	備考	主な出所				
					36項目 データ	アンケート	ヒアリング・ WS	他地域 事例	構成員 検討
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	1	住民利用に合わせた列車の運行	ダイヤ変更、増便、直通化など	○	○	○	○ 北条 鉄道	○
	高速化	2	来訪者利用に合わせた列車の運行	ダイヤ変更、増便、直通化など	○	○	○		○
		3	列車のスピードアップ	徐行区間の解消など		○	○		
	バリアフリー化	4	駅設備の充実	新見駅、備中神代駅のバリアフリー化など		○	○		
二次交通との連携強化	公共交通間の 接続強化	5	生活・観光拠点の利便性を向上させる新たな交通結節点の形成	きらめき広場哲西など	○	○	○		○
		6	住民利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	○	○	○		○
		7	来訪者利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	○	○	○		○
		8	駅周辺におけるパーソナルモビリティの導入	レンタサイクル、レンタルバイクなど					○
	公共交通間の 役割分担	9	スクールバスとの役割分担見直し	スクールバスの運行区間見直しなど			○		
	自家用車との 接続強化	10	駅周辺の駐車場整備	-			○		

【参考】アイデア集 (2/4)

大分類	小分類	# 施策名	備考	主な出所					
				36項目 データ	アンケート	ヒアリング・ WS	他地域 事例	構成員 検討	
産業・観光分野に おける芸備線の活用	ビジネス・教育需 要の喚起	11 地域課題をテーマにした会議の誘致	過疎をテーマとした会議の誘致など ※企業誘致は「駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成」に含む				○ 只見線	○	
		12 学校行事での芸備線利用	保育所や高校の行事での鉄道利用など			○	○ 只見線		
	列車活用による 観光需要の喚起	13 列車自体の観光コンテンツ化	地域の食材を活かしたコンテンツの提供（列車内での食材提供、駅弁提供、カフェ・バー列車）、季節のお出かけ需要に応じた団体臨時列車ツアー、列車内外装の整備（ラッピング、ヘッドマーク、芸備線応援大使による音声案内）、新たな観光列車の導入など		○		○		○
		14 サイクルトレインの運行	-				○		
	イベント・ツアー・ 商品開発による 観光需要の喚起	15 地域の観光資源と連携した観光ツアーの造成	比婆山、帝釈峡、熊野神社との連携、田舎体験、レトロな街並みの観光、マウンテンバイク体験コースの整備、親子孫水車で紙すき体験、酒蔵巡り、ツチノコ・ヒバゴン探索、地元食材満喫、雪山トレッキングなど		○	○		○	○
		16 広域での周遊観光ツアーの造成	庄原→出雲大社の1泊2日ルートなど					○	

【参考】アイデア集 (3/4)

大分類	小分類	#	施策名	備考	主な出所				
					36項目 データ	アンケート	ヒアリング・ WS	他地域 事例	構成員 検討
産業・観光分野に おける芸備線の活用	イベント・ツアー・商 品開発による観光 需要の喚起	17	鉄道マニア向けの観光ツアーの造成	駅舎巡り、車庫案内ツアー、 備後落合駅90周年フェス など			○		
		18	全国的な周遊コンテンツとの連携	位置情報を活用したゲーム アプリ等とのコラボ、アニメや マンガとのコラボなど					○
		19	地域の特産品を活用した商品開発・ 販売	鉄道関連グッズの製作、 高校生・大学生と連携した 商品開発など ※駅弁製作は「列車自体の 観光コンテンツ化」に含む			○		○
		20	芸備線沿線の景観整備	田んぼアートや植花で観光 スポット化など			○		
		21	芸備線のPR強化	SNS運用、インフルエンサー 連携など			○		○
	22	目的地と連携した 消費促進	商業・観光施設と連携した外出促進	公共交通利用者に対する 特典の用意など		○	○		
拠点としての駅舎・ 周辺施設の有効活用	地域の賑わい拠 点の形成	23	駅施設を活用した地域の賑わい拠点 形成	野外フェス、音楽祭・アート展 の定期開催、地元食材を販 売するテント村、駅マルシェ、 学生が待ち時間を有効活用 できるスペースなど			○		○

【参考】アイデア集 (4/4)

大分類	小分類	#	施策名	備考	主な出所				
					36項目 データ	アンケート	ヒアリング・ WS	他地域 事例	構成員 検討
拠点としての駅舎・ 周辺施設の有効活用	産業・観光拠点の 形成	24	駅施設を活用した仕事・産業の拠点 形成	コワーキングスペース、インキュ ベーション施設、過疎問題に 関心のある企業の誘致など		○	○	○ 油須原駅	○
		25	駅の観光拠点化	備後落合駅を往時の姿に 再現など			○	○ 碓氷峠	
自治体における地域活 性化・移住定住・立地 適正化施策の推進	移住の喚起	26	鉄道や駅周辺施設を活用した移住 体験の提供	ローカルダイブ・トレインと 連携したお試し移住など				○ 三見駅	○
	コンパクトシティ化	27	他の生活インフラと一体となった再整 備	生活施設の移転、駅と生活 施設の合築など	○			○ 江見駅、 北郷駅ほ か	
関係人口の創出	投資・寄附の仕組 みとの連携	28	駅や鉄道資産に対するネーミングライツ の導入	駅名、枕木名入れなど			○		○
		29	ふるさと納税との連携強化	返礼品として芸備線関連 商品を提供など			○		
その他		30	貨客混載列車の運行	野菜や特産品の輸送など			○		



# 予算や期間の制約を踏まえると、30項目を全て実証することは現実的でないため、一定の考え方に沿って、4種類に分類する

## 施策アイデア一覧

## 分類

大分類	小分類	#	施策名	主な出所
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	1	住民利用に合わせた列車の運行	36項目データ
	ダイヤ改善	2	来訪者利用に合わせた列車の運行	アンケート
	高速化	3	列車のスピードアップ	ヒアリング・WS
鉄道の運行形態改善	バリアフリー化	4	駅設備の充実	他地域事例
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	5	生活・観光拠点の利便性を向上させる新たな交通結節点の形成	〇北条鉄道
	公共交通間の接続強化	6	住民利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	〇
	公共交通間の接続強化	7	来訪者利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	〇
	公共交通間の接続強化	8	駅周辺におけるパーク＆ライドの導入	〇
	公共交通間の接続強化	9	スクールバスとの役割分担見直し	〇
	公共交通間の接続強化	10	駅周辺の駐車場整備	〇
	産業・観光分野における連携強化	11	地域課題をテーマにした会議の誘致	〇
	産業・観光分野における連携強化	12	学校行事での連携強化	〇
	産業・観光分野における連携強化	13	列車自体の観光コンテンツ化	〇
	産業・観光分野における連携強化	14	サイクルトレインの運行	〇
アイデア集	イベント・ツアー	15	地域の観光資源と連携した観光ツアーの造成	〇
	イベント・ツアー	16	広域での周遊観光ツアーの造成	〇
	イベント・ツアー	17	鉄道マニア向けの観光ツアーの造成	〇
	イベント・ツアー	18	全国的な周遊コンテンツとの連携	〇
	イベント・ツアー	19	地域の特産品を活用した商品開発・販売	〇
	イベント・ツアー	20	芸術線沿線の景観整備	〇
	イベント・ツアー	21	芸術線のPR強化	〇
	イベント・ツアー	22	商業・観光施設と連携した外出促進	〇
	イベント・ツアー	23	駅施設を活用した地域の賑わい拠点形成	〇
	イベント・ツアー	24	駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成	〇
仮説深度化	イベント・ツアー	25	駅の観光拠点化	〇
	イベント・ツアー	26	鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供	〇
	イベント・ツアー	27	他の生活・インフラと一体となった再整備	〇
	イベント・ツアー	28	駅や鉄道資産に対するネーミングライツの導入	〇
	イベント・ツアー	29	ふるさと納税との連携強化	〇
	イベント・ツアー	30	貨客混載列車の運行	〇
	その他			〇



実証実験

1

「実証事業A」で新事業の実証実験を行うことが望ましい



実証実験

2

「実証事業A」で既存事業の強化を支援することが望ましい  
(プロモーション支援、事業間連携の推進など)



机上検討

3

必要に応じ「実証事業A」で机上検討を行うことが望ましい  
(アンケートやヒアリングによるニーズ確認など)



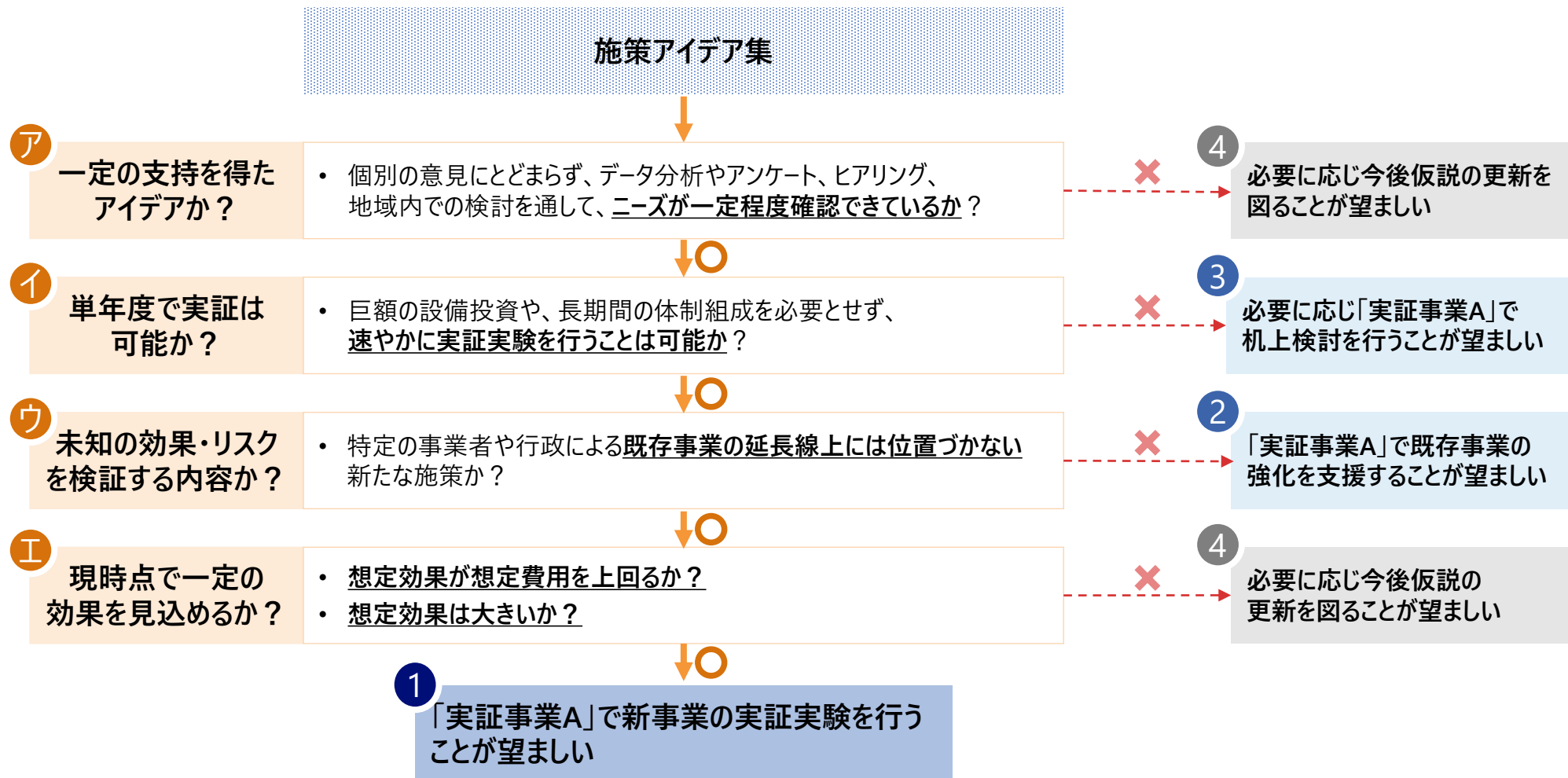
仮説深度化

4

必要に応じ今後仮説の更新を図ることが望ましい

# 施策アイデア集を4段階の検討で分類した

## 施策アイデアの分類方法



## 施策アイデア30項目を条件ア～ウにより分類した（1 / 4）

大分類	小分類	#	施策名	備考	条件ア	条件イ	条件ウ	条件エ
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	1	住民利用に合わせた列車の運行	ダイヤ変更、増便、直通化など	○	○	○	○
		2	来訪者利用に合わせた列車の運行	ダイヤ変更、増便、直通化など	○	○	○	○
	高速化	3	列車のスピードアップ	徐行区間の解消など	○	×	-	-
	バリアフリー化	4	駅設備の充実	新見駅、備中神代駅のバリアフリー化など	○	×	-	-
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	5	生活・観光拠点の利便性を向上させる新たな交通結節点の形成	きらめき広場哲西など	○	○	○	○
		6	住民利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	○	○	○	○
		7	来訪者利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	○	○	○	○
		8	駅周辺におけるパーソナルモビリティの導入	レンタサイクル、レンタルバイクなど	○	○	×	-
	公共交通間の役割分担	9	スクールバスとの役割分担見直し	スクールバスの運行区間見直しなど	×	-	-	-
	自家用車との接続強化	10	駅周辺の駐車場整備	-	×	-	-	-

## 施策アイデア30項目を条件ア～ウにより分類した（2 / 4）

大分類	小分類	#	施策名	備考	条件ア	条件イ	条件ウ	条件エ
産業・観光分野における芸備線の活用	ビジネス・教育 需要の喚起	11	地域課題をテーマにした会議の誘致	過疎をテーマとした会議の誘致など ※企業誘致は「駅施設を活用した 仕事・産業の拠点形成」に含む	○	×	—	—
		12	学校行事での芸備線利用	保育所や高校の行事での 鉄道利用など	○	×	—	—
	列車活用による 観光需要の 喚起	13	列車自体の観光コンテンツ化	地域の食材を活かしたコンテンツの提供（列車内での食材提供、駅弁提供、カフェ・バー列車）、季節のお出かけ需要に応じた団体臨時列車ツアー、列車内外装の整備（ラッピング、ヘッドマーク、芸備線応援大使による音声案内）、新たな観光列車の導入など	○	○	○	○
		14	サイクルトレインの運行	—	×	—	—	—
	イベント・ツアー・ 商品開発による 観光需要の 喚起	15	地域の観光資源と連携した観光ツアーの造成	比婆山、帝釈峡、熊野神社との連携、田舎体験、レトロな街並みの観光、マウンテンバイク体験コースの整備、親子孫水車での紙すき体験、酒蔵巡り、ツチノコ・ヒバゴン探索、地元食材満喫、雪山トレッキングなど	○	○	×	—
		16	広域での周遊観光ツアーの造成	庄原→出雲大社の1泊2日ルートなど	○	×	—	—
		17	鉄道マニア向けの観光ツアーの造成	駅舎巡り、車庫案内ツアー、備後落合駅90周年フェスなど	○	○	×	—

## 施策アイデア30項目を条件ア～ウにより分類した（3 / 4）

大分類	小分類	#	施策名	備考	条件ア	条件イ	条件ウ	条件エ
産業・観光分野における芸備線の活用	イベント・ツアー・商品開発による観光需要の喚起	18	全国的な周遊コンテンツとの連携	位置情報を活用したゲームアプリ等とのコラボ、アニメやマンガとのコラボなど	○	○	○	○
		19	地域の特産品を活用した商品開発・販売	鉄道関連グッズの製作、高校生・大学生と連携した商品開発など ※駅弁製作は「列車自体の観光コンテンツ化」に含む	○	○	×	—
		20	芸備線沿線の景観整備	田んぼアートや植花で観光スポット化など	×	—	—	—
	21	芸備線のPR強化	SNS運用、インフルエンサー連携など	○	○	×	—	
	22	商業・観光施設と連携した消費促進	公共交通利用者に対する特典の用意など	×	—	—	—	
拠点としての駅舎・周辺施設の有効活用	地域の賑わい拠点の形成	23	駅施設を活用した地域の賑わい拠点形成	野外フェス、音楽祭・アート展の定期開催、地元食材を販売するテント村、駅マルシェ、学生が待ち時間を有効活用できるスペースなど	○	○	×	—

## 施策アイデア30項目を条件ア～ウにより分類した（4 / 4）

大分類	小分類	#	施策名	備考	条件ア	条件イ	条件ウ	条件エ
拠点としての駅舎・周辺施設の有効活用	産業・観光拠点の形成	24	駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成	コワーキングスペース、インキュベーション施設、過疎問題に関心のある企業の誘致など	○	○	○	○
		25	駅の観光拠点化	備後落合駅を往時の姿に再現など	○	×	—	—
自治体における地域活性化・移住定住・立地適正化施策の推進	移住の喚起	26	鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供	ローカルダイブ・トレインと連携したお試し移住など	○	○	○	○
	コンパクトシティ化	27	他の生活インフラと一体となった再整備	生活施設の移転、駅と生活施設の合築など	○	×	—	—
関係人口の創出	投資・寄附の仕組みとの連携	28	駅や鉄道資産に対するネーミングライツの導入	駅名、枕木名入れなど	○	×	—	—
		29	ふるさと納税との連携強化	返礼品として芸備線関連商品を提供など	○	○	×	—
その他		30	貨客混載列車の運行	野菜や特産品の輸送など	×	—	—	—

## ①「実証事業A」で新事業の実証実験を行うことが望ましい 施策は9項目

大分類	小分類	#	施策名	備考	
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	1	住民利用に合わせた列車の運行	ダイヤ変更、増便、直通化など	費用対効果試算と施策の詳細化は、2施策一体的に実施
		2	来訪者利用に合わせた列車の運行	ダイヤ変更、増便、直通化など	
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	5	生活・観光拠点の利便性を向上させる新たな交通結節点の形成	きらめき広場哲西など	費用対効果試算と施策の詳細化は、2施策一体的に実施
		6	住民利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	
		7	来訪者利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	費用対効果試算と施策の詳細化は、2施策一体的に実施
産業・観光分野における芸備線の活用	列車活用による観光需要の喚起	13	列車自体の観光コンテンツ化	地域の食材を活かしたコンテンツの提供（列車内での食材提供、駅弁提供、カフェ・バー列車）、季節のお出かけ需要に応じた団体臨時列車ツアー、列車内外装の整備（ラッピング、ヘッドマーク、音声案内）、新たな観光列車の導入など	
	イベント・ツアー・商品開発による観光需要の喚起	18	全国的な周遊コンテンツとの連携	位置情報を活用したゲームアプリ等とのコラボ、アニメやマンガとのコラボなど	
拠点としての駅舎・周辺施設の有効活用	産業・観光拠点の形成	24	駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成	コワーキングスペース、インキュベーション施設、過疎問題に関心のある企業の誘致など	
自治体における地域活性化・移住定住・立地適正化施策の推進	移住の喚起	26	鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供	ローカルダイブ・トレインと連携したお試し移住など	

## ②「実証事業A」で既存事業の強化を支援することが望ましい 施策は7項目

大分類	小分類	#	施策名	備考
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	8	駅周辺におけるパーソナルモビリティの導入	レンタサイクル、レンタルバイクなど
産業・観光分野における 芸備線の活用	イベント・ツアー・商品開発 による観光需要の喚起	15	地域の観光資源と連携した 観光ツアーの造成	比婆山、帝釈峡、熊野神社との連携、田舎体験、レトロな街並みの観光、マウンテンバイク体験コースの整備、親子孫水車で紙すき体験、酒蔵巡り、ツチノコ・ヒバゴン探索、地元食材満喫、雪山トレッキングなど
		17	鉄道マニア向けの観光ツアーの造成	駅舎巡り、車庫案内ツアー、備後落合駅90周年フェスなど
		19	地域の特産品を活用した商品開発・販売	鉄道関連グッズの製作、高校生・大学生と連携した商品開発など ※駅弁製作は「列車自体の観光コンテンツ化」に含む
		21	芸備線のPR強化	SNS運用、インフルエンサー連携など
拠点としての駅舎・周辺施設の 有効活用	地域の賑わい拠点の形成	23	駅施設を活用した地域の賑わい拠点形成	野外フェス、音楽祭・アート展の定期開催、地元食材を販売するテント村、駅マルシェ、学生が待ち時間を有効活用できるスペースなど
関係人口の創出	投資・寄附の 仕組みとの連携	29	ふるさと納税との連携強化	返礼品として芸備線関連商品を提供など



### ③必要に応じ「実証事業A」で机上検討を行うことが望ましい 施策は8項目

大分類	小分類	#	施策名	備考
鉄道の運行形態改善	高速化	3	列車のスピードアップ	徐行区間の解消など
	バリアフリー化	4	駅設備の充実	新見駅、備中神代駅のバリアフリー化など
産業・観光分野における 芸備線の活用	ビジネス・教育需要の喚起	11	地域課題をテーマにした会議の誘致	過疎をテーマとした会議の誘致など ※企業誘致は「駅施設を活用した仕事・産業の 拠点形成」に含む
		12	学校行事での芸備線利用	保育所や高校の行事での鉄道利用など
	イベント・ツアー・商品開発 による観光需要の喚起	16	広域での周遊観光ツアーの造成	庄原→出雲大社の1泊2日ルートなど
拠点としての駅舎・周辺施設の 有効活用	産業・観光拠点の形成	25	駅の観光拠点化	備後落合駅を往時の姿に再現など
自治体における地域活性化・ 移住定住・立地適正化施策の 推進	コンパクトシティ化	27	他の生活インフラと一体となった再整備	生活施設の移転、駅と生活施設の合築など
関係人口の創出	投資・寄附の 仕組みとの連携	28	駅や鉄道資産に対するネーミングライツの 導入	駅名、枕木名入れなど

## ④必要に応じ今後仮説の更新を図ることが望ましい 施策は6項目

大分類	小分類	#	施策名	備考
二次交通との連携強化	公共交通間の役割分担	9	スクールバスとの役割分担見直し	スクールバスの運行区間見直しなど
	自家用車との接続強化	10	駅周辺の駐車場整備	-
産業・観光分野における芸備線の活用	列車活用による観光需要の喚起	14	サイクルトレインの運行	-
	イベント・ツアー・商品開発による観光需要の喚起	20	芸備線沿線の景観整備	田んぼアートや植花で観光スポット化など
	目的地と連携した消費促進	22	商業・観光施設と連携した外出促進	公共交通利用者に対する特典の用意など
その他		30	貨客混載列車の運行	野菜や特産品の輸送など

# 施策#1、2の取組イメージ（住民・来訪者利用に合わせた列車の運行）

## 施策名

住民・来訪者利用に合わせた列車の運行

## 観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

## インプット 示唆

### 36項目 データ分析、 アンケート

- 住民の公共交通に対するニーズとして、ダイヤ変更や増便を挙げる声が多い（#18）
- 住民アンケートで、約21%の人が「ダイヤ変更」による利用増加の可能性を示した
- 住民の希望ダイヤは、往路が8～10時台、復路は15～20時台に分散している。このうち、既存の列車がカバーしない時間帯として、特に18～20時台の備後庄原→備後方面、17・19・20時台の新見→東城方面が挙げられる
- 来訪者アンケートで、二市に到着する時間は10～12時台が最多だった一方で、当該時間帯には芸備線の備後庄原→備後西城→備後落合方面、新見→東城→備後落合方面の列車が設定されていない

### ヒアリング

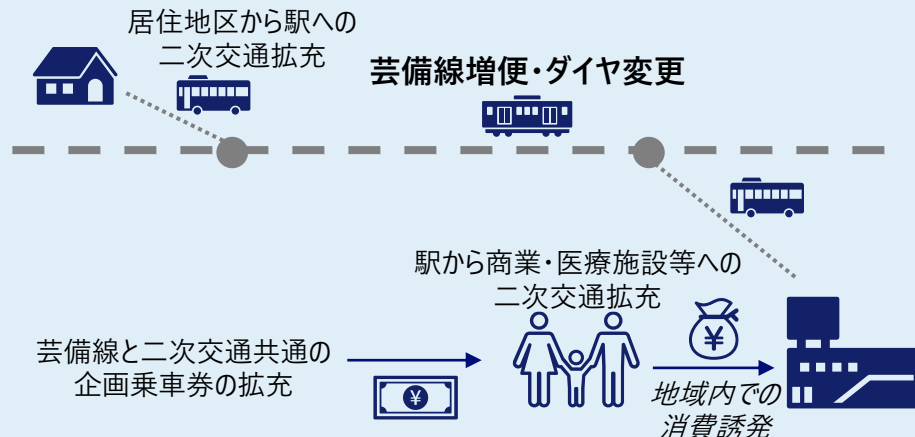
- 利用上の課題として、「ダイヤの不便さ」を挙げる人が多く、特に「高校生の部活動に合わせた18時以降の便」や、「買物・通院に合わせた日中の便」が挙がった

### 構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループや、二市における検討の中で、増便の必要性が認識されている

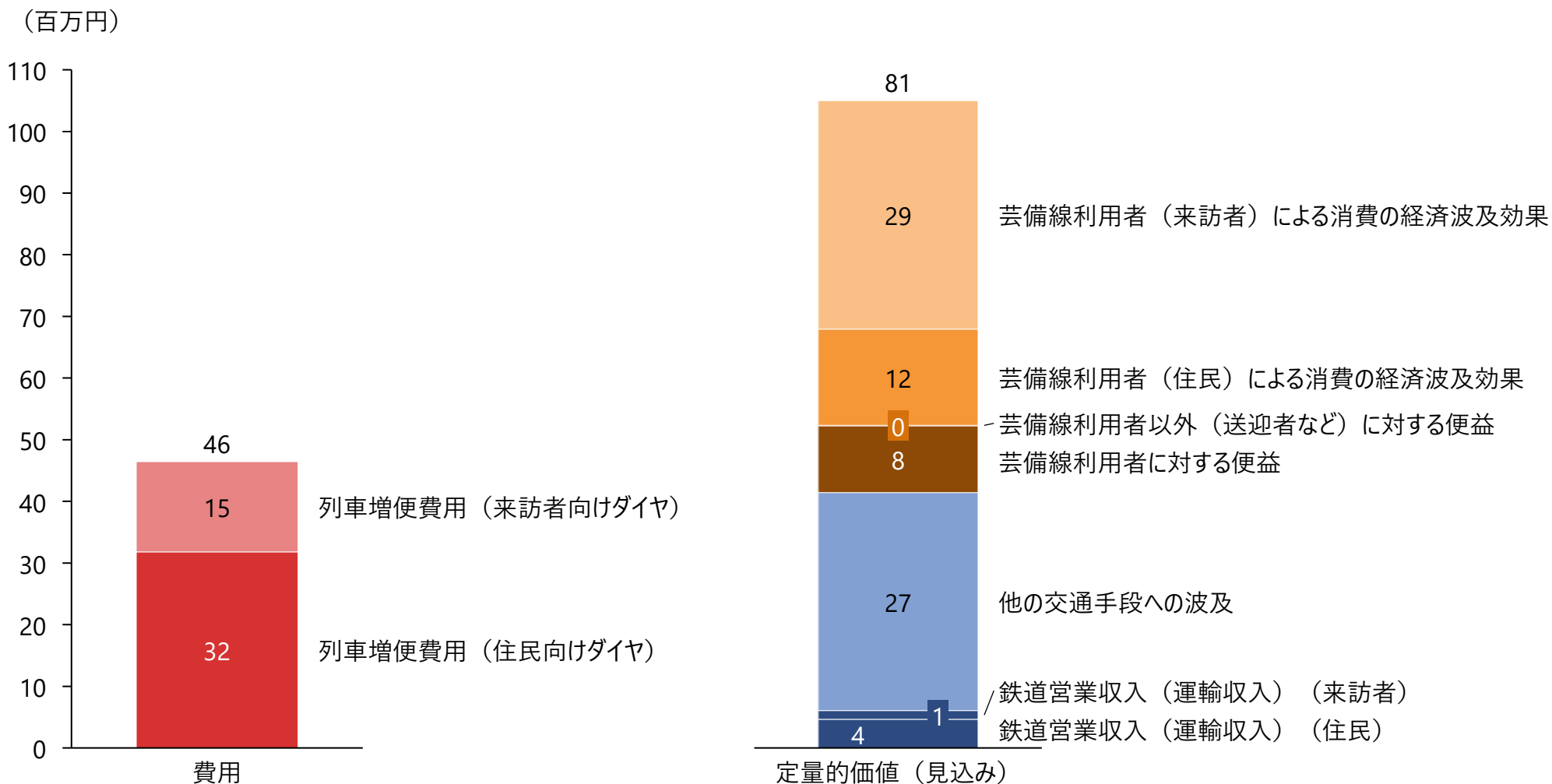
## 取組のイメージ

- 主に住民向けのダイヤとして、帰宅時間帯の備後庄原→備後落合方面、新見→東城方面の列車を設定
- 主に来訪者向けのダイヤとして、土休日に三次⇔備後庄原⇔新見間で1往復の列車を設定
- 「二次交通との連携・新規導入」や地域の外出促進施策と一体的に実施することで、新規の利用・外出・来訪需要を掘り起こす
- 実証段階では、バスによる擬似的な増便も含め検討する



## 施策#1、2の費用対効果

### 費用対効果の試算結果



# 施策#5、6の取組イメージ（新たな交通結節点の形成および住民向け二次交通との連携・新規導入）

## 施策名

新たな交通結節点の形成および住民向け二次交通との連携・新規導入

## 観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

## インプット 示唆

### 36項目 データ分析、 アンケート

- 住民の公共交通に対するニーズとして、家の近くでの乗降や、交通手段間の乗継改善を挙げる声が多い（#18）
- 住民アンケートで、約17%の人が「二次交通整備」による利用増加の可能性を示した
- 二次交通の整備を希望する箇所は、「目的地の最寄駅から目的地まで」が「自宅から最寄り駅まで」よりやや多く、**目的地としては、新見駅・備後庄原駅を挙げた人が多い**
- 目的地として上位に挙げられる商業施設や医療施設は、鉄道沿線に存在するものの、**駅から1～2km程度離れている施設が多く、駅からのアクセスが課題**（#9）
- 沿線に存在する「きらめき広場哲西」は、**地域の拠点施設**であり、民間バス路線が乗り入れる一方、駅からは離れており、ポテンシャルを活かしきれていない可能性がある（#17、28）  
※参考事例として「道の駅きたごう」が存在（#21）

### ヒアリング

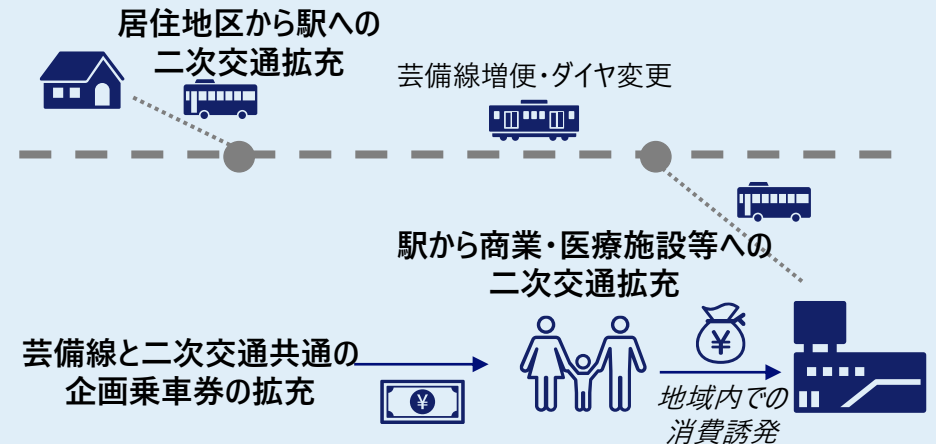
- 利用上の課題として、「二次交通との接続の悪さ」を挙げる人が多い

### 構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループや、二市における検討の中で、二次交通整備の必要性が認識されている

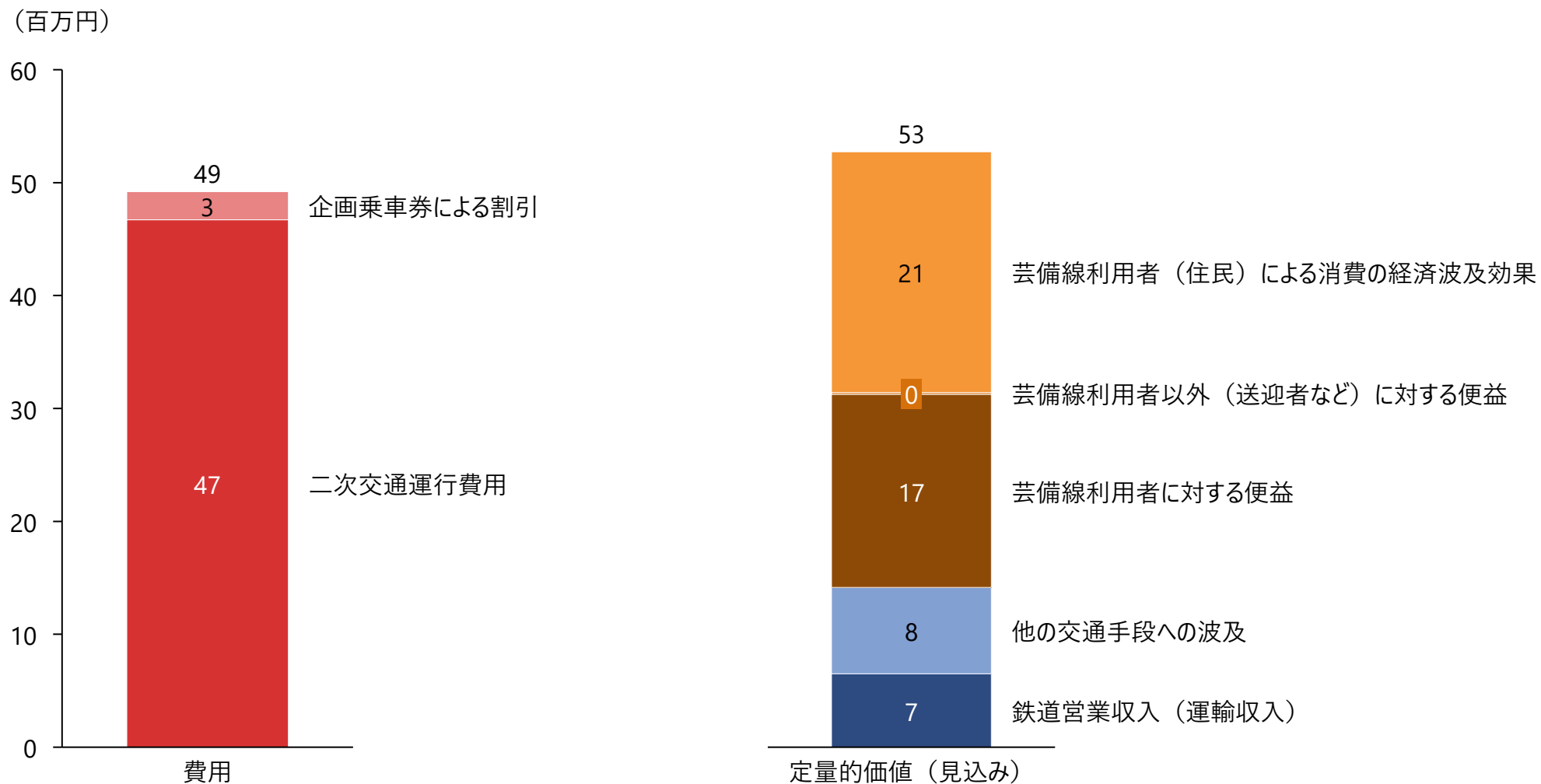
## 取組のイメージ

- 新見駅・備後庄原駅から、周辺の商業施設・医療施設に向かう二次交通の整備、拡充等を実施する（実証段階では、列車の発着に合わせてジャンボタクシーで送迎を行うなど簡易な形を想定）
- 各居住地区から芸備線の駅に向かう二次交通は、必要に応じてダイヤの接続を改善する
- 芸備線と二次交通で一体的に利用可能な企画乗車券の販売や、地域の外出促進施策との連携を行う
- 「きらめき広場哲西」を地域の交通結節点とするため、矢神駅・野馳駅等からのアクセス交通を整備する



## 施策#5、6の費用対効果

### 費用対効果の試算結果



# 施策#7、13の取組イメージ（列車自体の観光コンテンツ化および来訪者向け二次交通との連携・新規導入）

## 施策名

列車自体の観光コンテンツ化および来訪者向け二次交通との連携・新規導入

## 観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

## インプット 示唆

### 36項目 データ分析、 アンケート

- 新見市・庄原市の主要な観光地へは自家用車による来訪が多く、鉄道のポテンシャルを活かしきれていない（#10）
- 沿線の主要観光地（備北丘陵公園、親子孫水車等）は、駅からの二次交通が運行されていないケースや、土休日は運休のケースが多く、鉄道を利用して観光周遊することが難しい（#28）
- 来訪者アンケートでは、「駅から目的地までの公共交通整備」、「鉄道とバスの接続待ち時間減少」、「イベント列車」等の施策によって、芸備線利用に変更する意向を示す人が一定数見られた

### ヒアリング

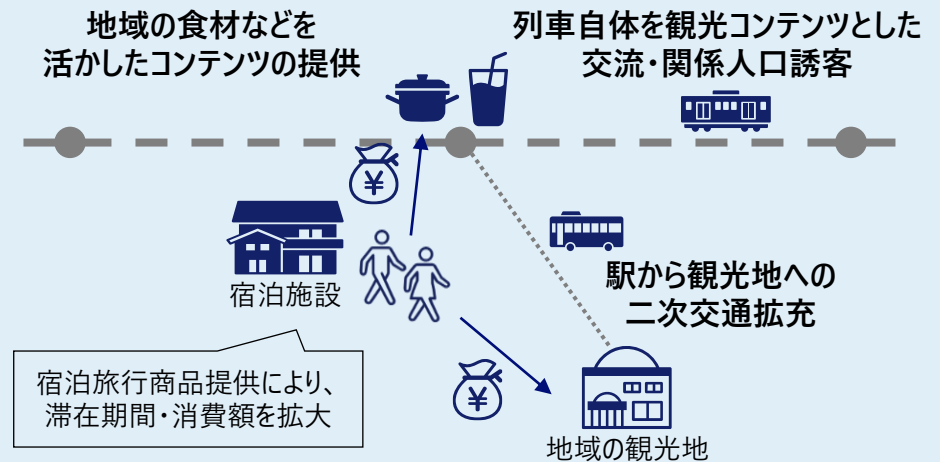
- 観光誘客に向けた取組として、「庄原ライナー」の通年運行化や、観光列車の導入、地域の食材などを活かしたコンテンツの提供などのアイデアが見られた

### 構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループで、「芸備線駅弁製作・販売」、「観光ツアー造成」（団体列車や貸切列車の運行）などのアイデアが挙がった

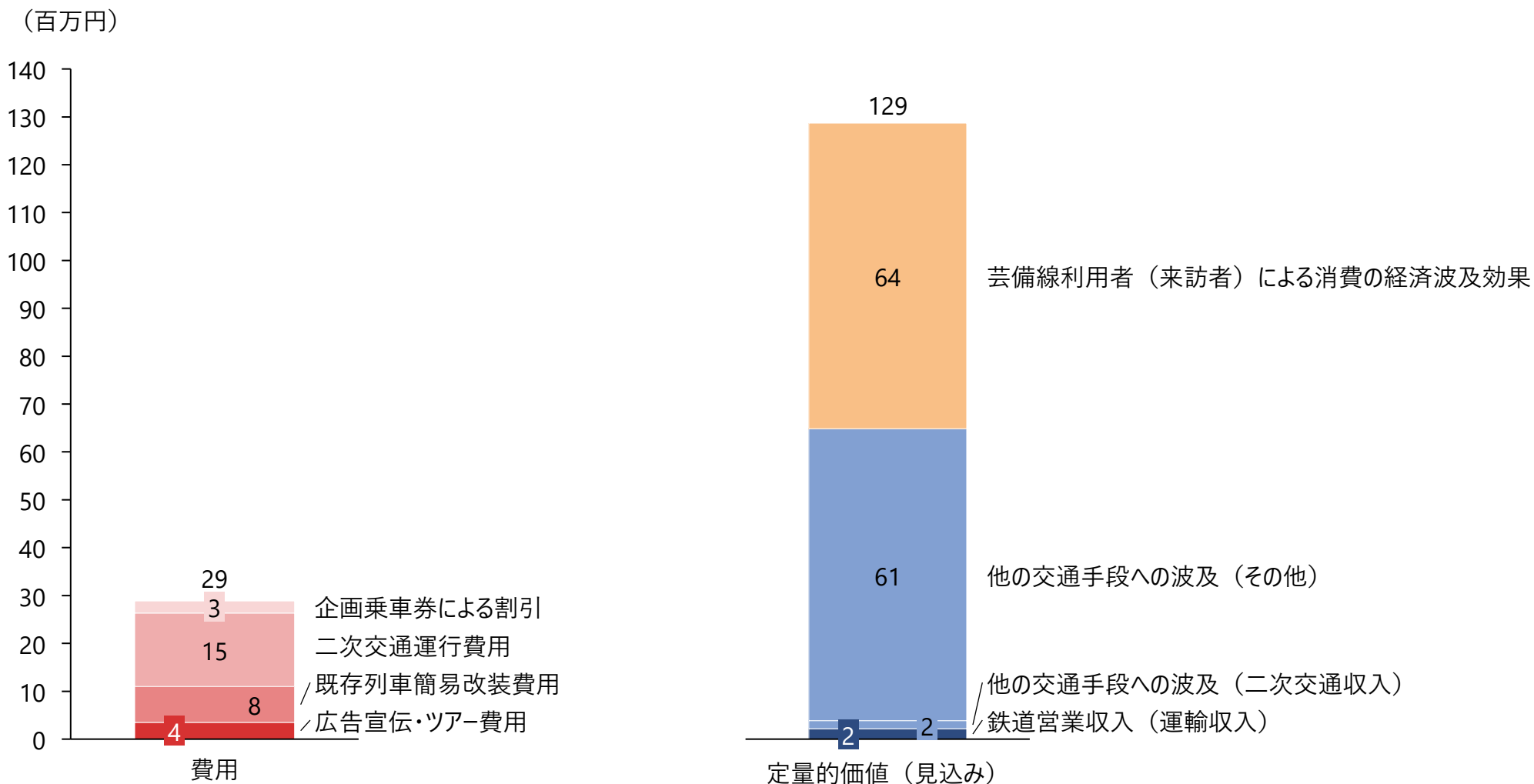
## 取組のイメージ

- 三次～備後庄原～備後落合間で、土休日に1往復の臨時列車を運行  
※実証段階では、施策#2の来訪者向け臨時列車と同じダイヤを活用
- 当該列車は、地域の食材などを活かしたコンテンツの提供、内外装のラッピング、ヘッドマーク掲出などを行い、列車自体を観光コンテンツとして誘客に活用する
- 列車到着に合わせた二次交通（観光ツアー等）を設定する



## 施策#7、13の費用対効果

### 費用対効果の試算結果



注) 列車運行に係る費用は施策#2に含まれる



## 施策#18の取組イメージ（全国的な周遊コンテンツとの連携）

### 施策名

全国的な周遊コンテンツとの連携

### 観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

### インプット 示唆

#### 36項目 データ分析、 アンケート

- 新見市・庄原市の主要な観光地へは自家用車による来訪が多く、鉄道のポテンシャルを活かしきれていない（#10）
- 新見市の観光客数はコロナ前水準に回復しているものの、庄原市はコロナ前水準を下回って推移しており、新たな観光コンテンツによる誘客が望まれる（#12）

#### ヒアリング

- 観光誘客に向けた取組として、「芸備線沿線での地域一帯型のイベント」や、「鉄道ファン向けのPR」などのアイデアが挙がった

#### 構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループで、「芸備線×アプリケーショコラボ」のアイデアが挙がった

### 取組のイメージ

- 強力な顧客基盤を持つ周遊コンテンツ（例：スマートフォンゲーム「駅メモ！」）とタイアップイベントとして、芸備線の駅や周辺の観光拠点を対象としたデジタルタンブラー等を行う

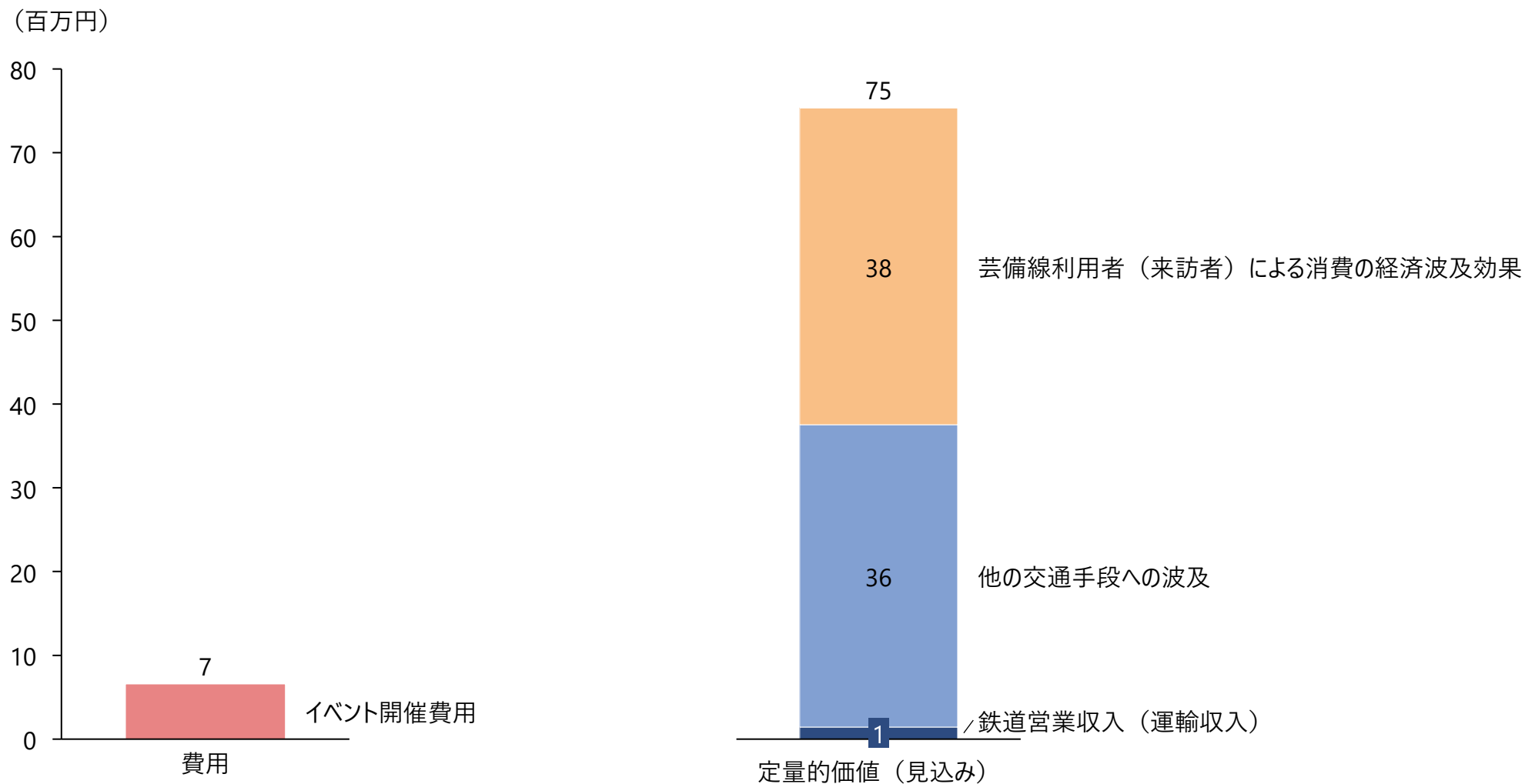
【参考】「駅メモ！」シリーズは、各地のローカル線を舞台としたタイアップイベントの実績を豊富に有する



画像出所) モバイルファクトリー社プレスリリース『「駅メモ！」シリーズ小谷村・糸魚川市とコラボ決定『南小谷れんげ』が大糸線PR公認キャラクターに！』

## 施策#18の費用対効果

### 費用対効果の試算結果



## 施策#24の取組イメージ（駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成）

### 施策名

駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成

### 観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

### インプット 示唆

#### 36項目 データ分析、 アンケート

- ・新見市・庄原市では、地域の産業が縮小傾向にあり、事業所数も減少している中で、**新たな産業の誘致・振興が課題**となっている（#4）
- ・ローカル線再生事例では、**平成筑豊鉄道・油須原駅で大学と連携した協働研究室が設置**されるなど、駅舎を地域の産業拠点として有効活用する事例が見られる（#21）
- ・**備後庄原駅・備後西城駅・東城駅・野馳駅・矢神駅周辺には事業所が点在**しており、商談等のビジネスでの往来も一定存在すると考えられる（#4）

#### ヒアリング

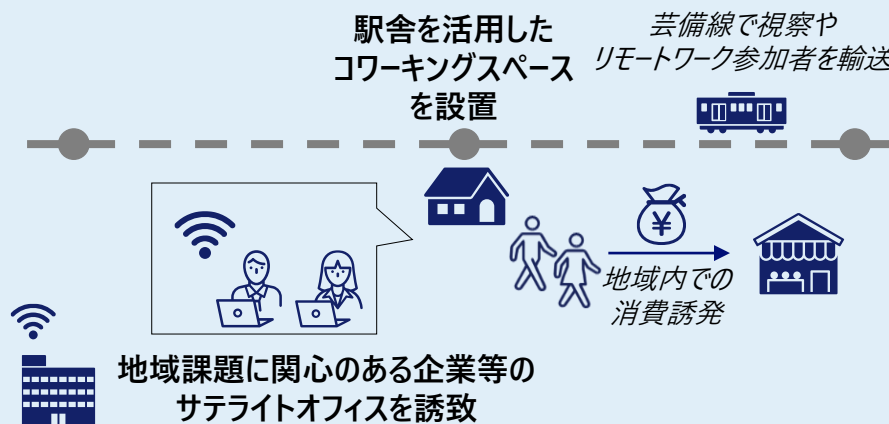
- ・産業振興に向けた取組として、「**駅舎を活用したコワーキングスペースやサテライトオフィス等の設置**」などのアイデアが見られた

#### 構成員による既存検討

- ・芸備線・庄原ワーキンググループで、「**サテライトオフィス開設・スタートアップオフィスの開設**」、「**過疎課題に取り組む企業誘致**」のアイデアが挙げられた

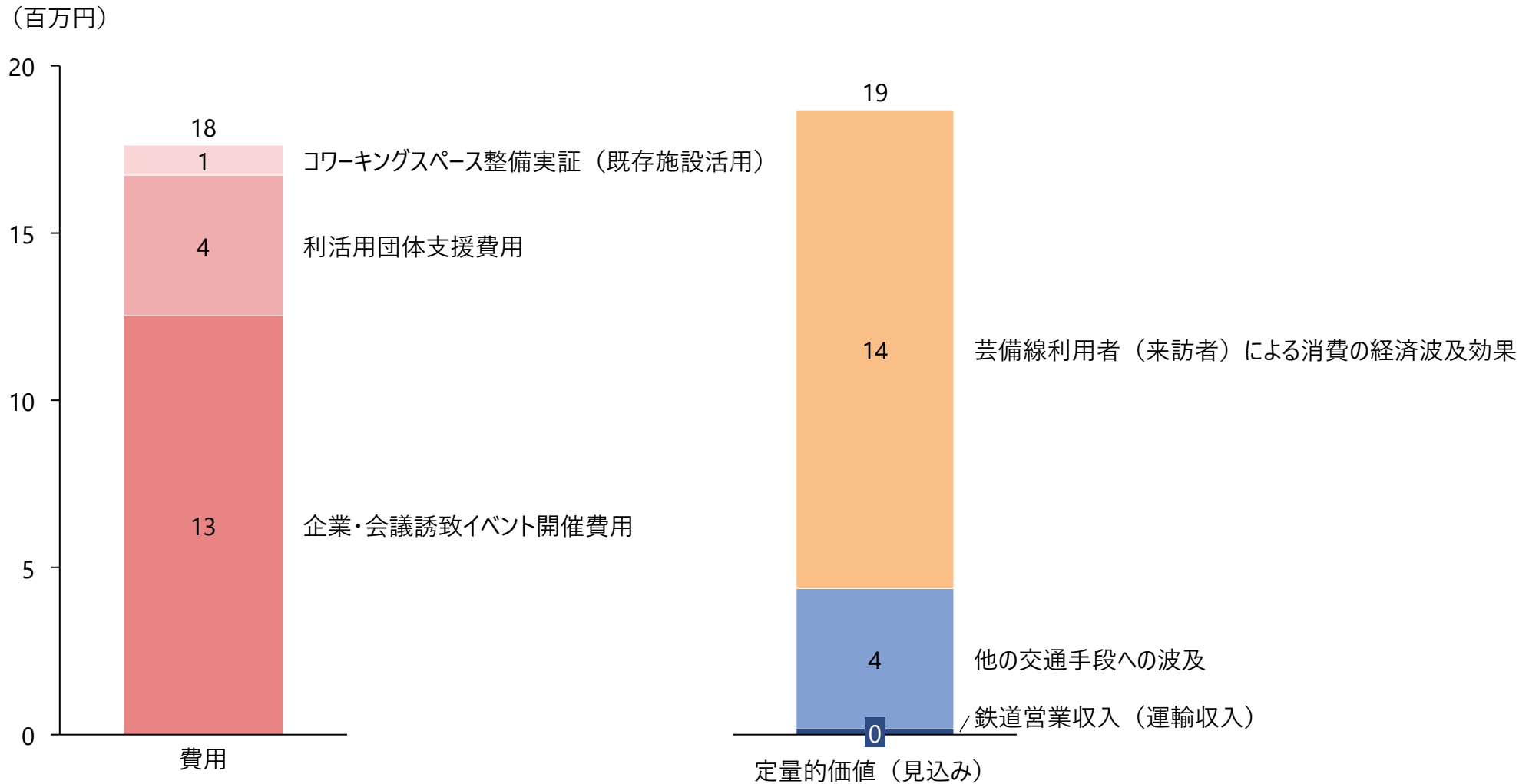
### 取組のイメージ

- 備後庄原駅、備後落合駅等の駅舎を活用したコワーキングスペースを設置し、地域課題に関心のある企業等のリモートワーク（サテライトオフィス）を誘致する  
（実証段階では、大規模改装が困難なため、空きスペースを活用）
- 上記企業を対象に、芸備線を用いた視察・モニターツアーを実施する



## 施策#24の費用対効果

### 費用対効果の試算結果



# 施策#26の取組イメージ（鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供）

## 施策名

鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供

## 観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

## インプット 示唆

### 36項目 データ分析、 アンケート

- ・新見市、庄原市では、今後人口減少が加速する見通しで、**関係人口・定住人口の掘り起こしが課題**となっている（#1、2）
- ・特に特定区間沿線では人口減少が著しい（#6）

### ヒアリング

- ・地域が抱える課題については、人口減少・高齢化に意見が集中した
- ・関係人口創出に向けた取組として、「ローカルダイブ・トレインの運行継続」を期待する声が挙がった
- ・鉄道の存在が、地域の人々の交流を生み出しているほか、まちの「格」、認知度の向上に貢献しており、関係人口の創出に役立てるべきとの声が挙がった

### 構成員による既存検討

- ・芸備線・庄原ワーキンググループで、「**サテライトオフィス開設・スタートアップオフィスの開設**」のアイデアが挙がった

## 取組のイメージ

- ローカルダイブ・トレインの取組を発展させ、駅周辺の空き家等を活用した移住体験プログラムを提供する
- 施策#24で設置するコワーキングスペースとも連携して、プログラム参加者にリモートワーク体験など就業環境も提供し、関係人口化・定住人口化を図る

モニターツアー実施による  
交流・関係人口誘客

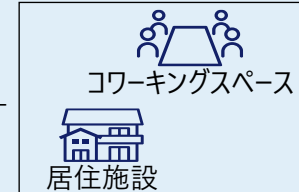


「ローカルダイブ・トレイン」の提供



ローカル線に乗り、地域の方や自然、文化、食などに触れる

移住体験プログラムの提供



移住・定住の促進

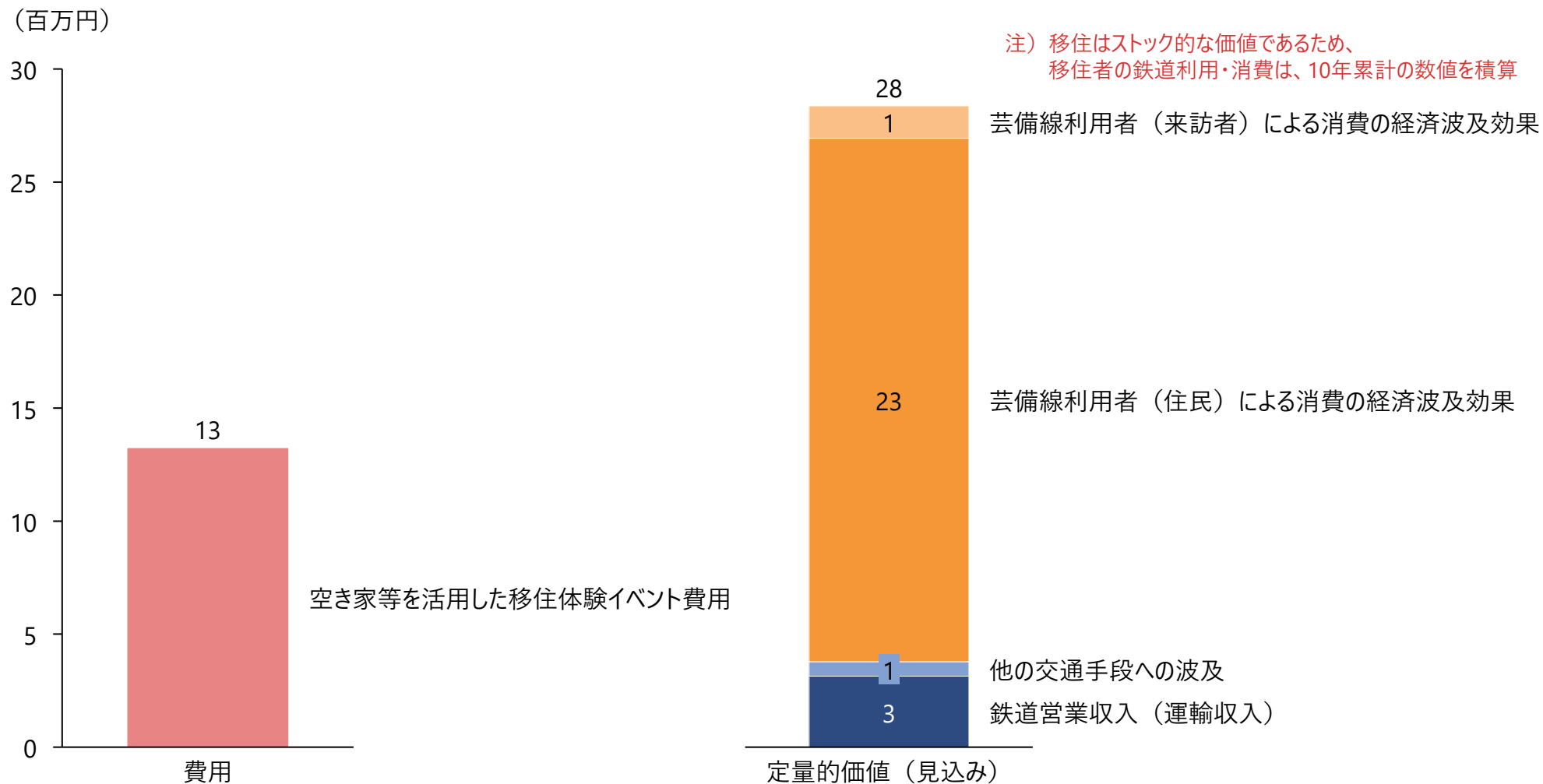


地域内での消費誘発



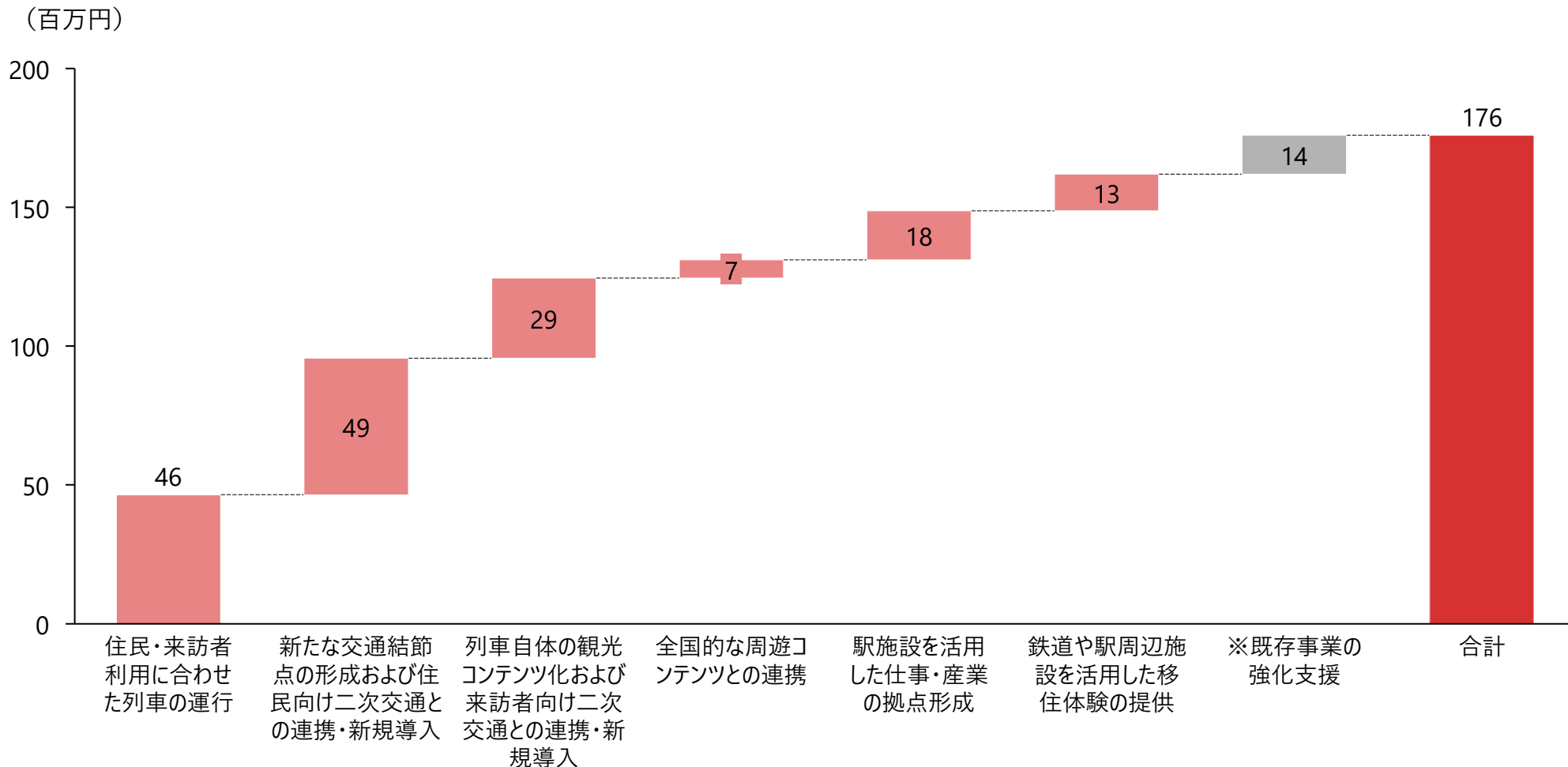
## 施策#26の費用対効果

### 費用対効果の試算結果



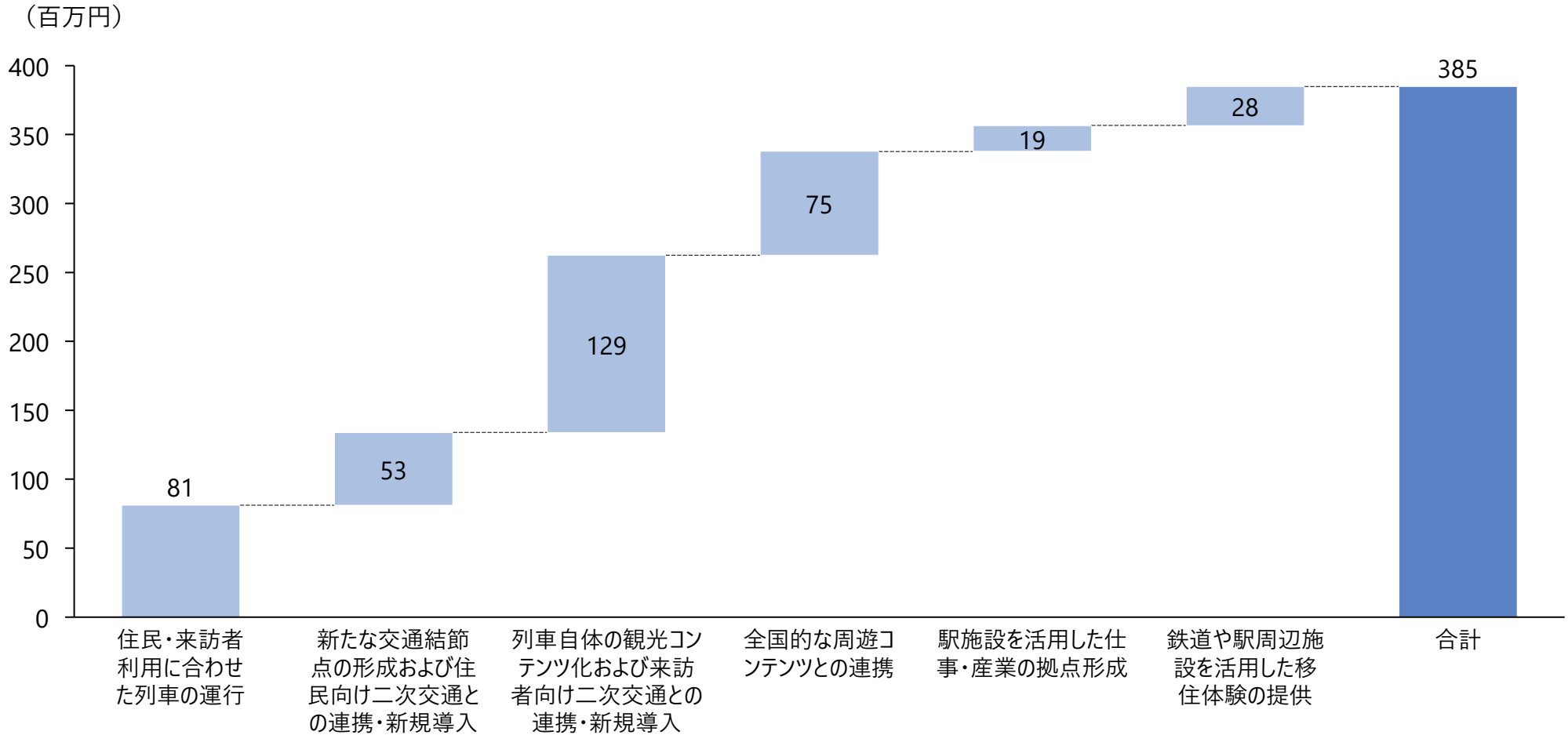
# 現状の次年度実証案を積み重ね、「既存事業の強化支援」も行うと、 実証費用は通年で約1.8億円

来年度年間実証費用の試算



# 現状の施策案を積み重ねた効果は、約3.8億円

## 施策効果の試算



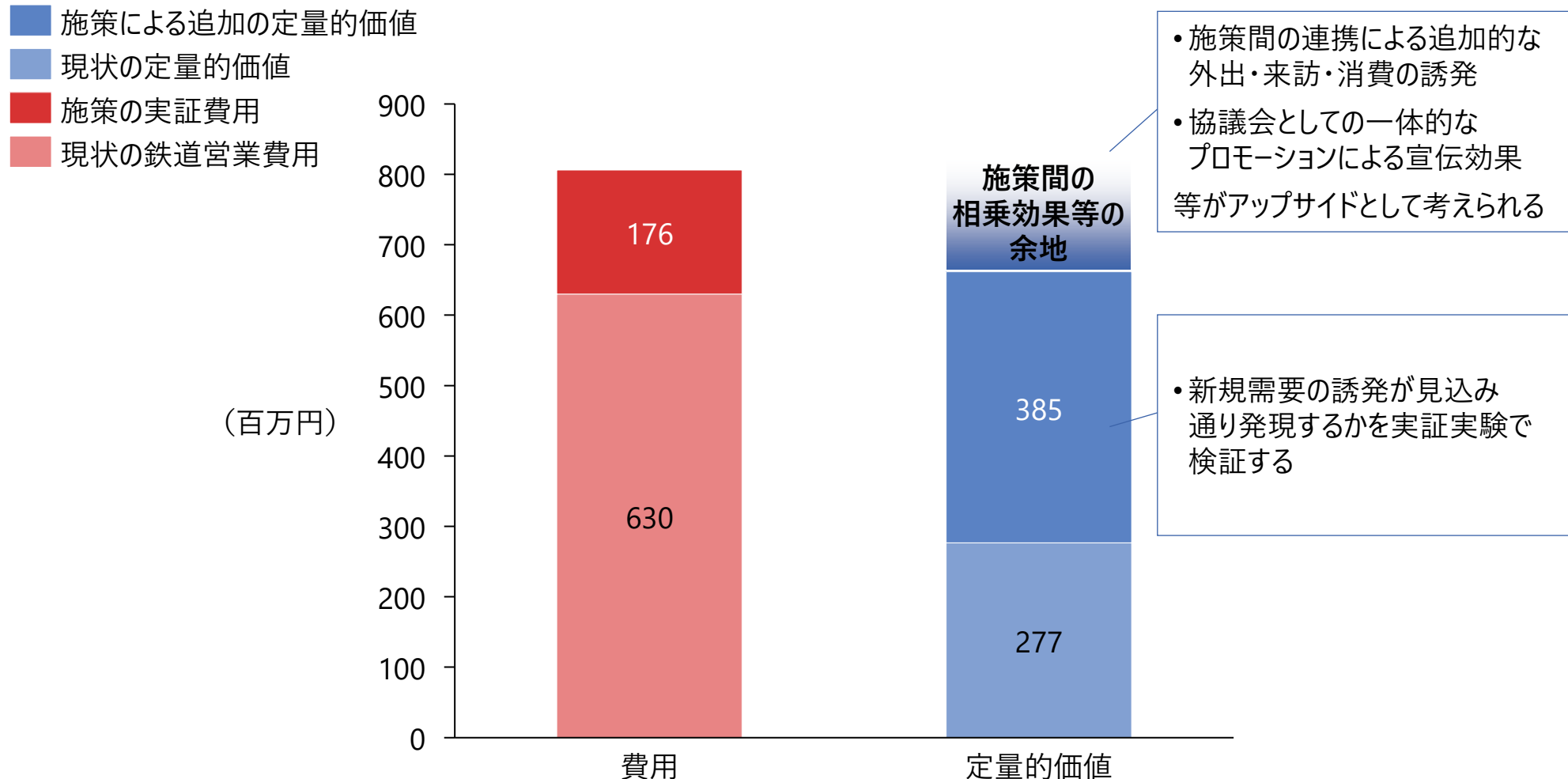
注) グラフ上の合計は「3.85億円」だが、小数点第3位以下を加味すると、概数は「3.8億円」となる



## 将来の費用（・投資）と施策効果の試算

施策の実証費用は約1.8億円、施策による追加の定量的価値は約3.8億円と推計され、推計どおりの効果が現れるか、さらなるアップサイドが生まれるかは、実証で確認する

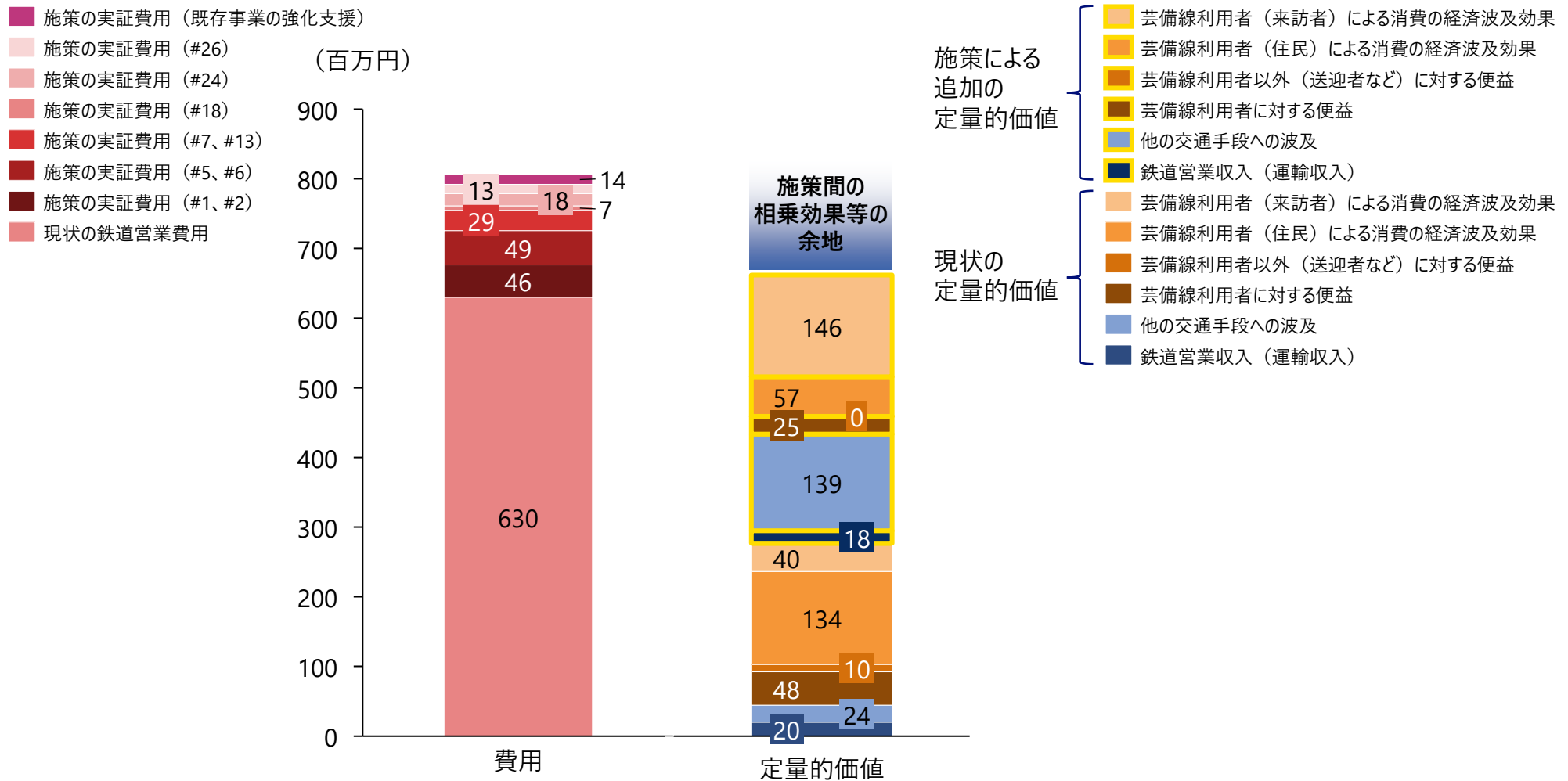
### 芸備線特定区間の費用および定量的価値



注) 「鉄道営業収入（運輸附帯収入、運輸雑収）」は、芸備線特定区間では僅少のため除外した

【参考】「施策の実証費用」および「施策による追加の定量的価値」の詳細

芸備線特定区間の費用および定量的価値（詳細）



## 【参考】実証費用試算の前提条件

施策名	施策（詳細）	費用試算上の仮定
住民・来訪者利用に合わせた列車の運行	住民利用に合わせた列車の運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 365日／年運行</li> <li>• 備中神代～東城1往復</li> <li>• 東城～備後落合0往復</li> <li>• 備後落合～備後庄原1往復</li> <li>• 備後庄原～三次1往復</li> </ul>
	来訪者利用に合わせた列車の運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 120日／年運行</li> <li>• 備中神代～東城1往復</li> <li>• 東城～備後落合1往復</li> <li>• 備後落合～備後庄原1往復</li> <li>• 備後庄原～三次1往復</li> </ul>
新たな交通結節点の形成および 住民向け二次交通との連携・新規導入	二次交通との連携・新規導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 365日／年運行</li> <li>• ワゴン車タイプ2台を7時間／日運行</li> <li>• 企画乗車券による割引施策あり</li> </ul>
列車自体の観光コンテンツ化および 来訪者向け二次交通との連携・新規導入	列車自体の観光コンテンツ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運行費用は「来訪者利用に合わせた列車の運行」に含む</li> <li>• 列車に簡易な改装工事を行う</li> </ul>
	二次交通との連携・新規導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 120日／年運行</li> <li>• ワゴン車タイプ2台を7時間／日運行</li> <li>• 企画乗車券による割引施策あり</li> </ul>
全国的な周遊コンテンツとの連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 位置ゲームアプリ等とのコラボイベントを開催</li> </ul>
駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成	企業・会議誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誘致のためのイベント・営業活動を実施</li> </ul>
	参画団体支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 取組の参画団体に助成を実施</li> </ul>
	コワーキングスペース整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存施設を活用した簡易な整備を実施</li> </ul>
鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験を実施</li> <li>• 既存施策（ローカルダイブ・トレイン）の継続費用は含まず</li> </ul>
既存事業の強化支援	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存事業の強化を支援 （プロモーション支援、事業間連携の推進など）</li> </ul>

## 芸備線は沿線地域にとって、自家用車を利用できない人の移動手段や、安価かつ安心安全な移動手段の提供、広域的なつながりの提供といった価値がある

### 芸備線の価値の分類

### 価値の内容 (コメントまとめ)

#### 住民の移動手段の提供

- ▶ 芸備線は、自家用車を利用できない人（学生）の移動（通学）手段となっている。
  - 地域の高校生の通学にとって必要不可欠な存在であり、芸備線が存在することによって送迎の負担も無くなる。
  - 通学も含めて芸備線の利用自体は減少しているものの、通学時間帯はいまでも一定の需要がある。
- ▶ 芸備線は、自家用車を利用できない人（高齢者など）の移動手段となっている。
  - 自家用車を運転できない高齢者や障がいのある人にとって、通院や買い物をする際の必要不可欠な存在である。
  - 免許返納等で将来自家用車を運転できなくなった場合でも、自身の移動が担保されているという安心感がある。
  - 飲み会の帰りなど、自家用車を臨時的に利用できない場合の貴重な移動手段である。
- ▶ 芸備線は、安価かつ安心安全な公共交通手段である。
  - 他の公共交通と比較しても、距離に対する運賃が安価である。定期代も安く、家計の負担になりにくい。
  - 定刻ダイヤで運行することが多いため、通勤・通学など時間に制限がある移動に最適である。
  - 他の移動手段と比較して、一度乗ってしまえば安全かつ快適に移動することができる。

#### 広域的なつながりの提供

- ▶ 芸備線は、遠方との交流や地域住民の外出を促進してくれる。
  - 芸備線を通じて他地域や他県とつながっていることによって、地域間の交流や遠方までの遠出が実現できる。
  - 芸備線が存在することによって、鉄道路線を通じた全国的な広いつながりを実感することができる。
  - 芸備線を通じた広いつながりによって、自家用車やバスでは移動が困難な場合でも遠方まで移動することができる。

## 芸備線は沿線地域にとって、まちの格や認知度の向上、地域や暮らしに対する愛着や誇りの醸成といった価値がある

### 芸備線の価値の分類

### 価値の内容 (コメントまとめ)

#### まちの格や 認知度の向上

- 芸備線は、まちの格や認知度向上に貢献している。
  - 芸備線の鉄道や駅が存在すること自体が、地域の格や名前を支える要素となっている。
  - 芸備線が存在することによって、鉄道や線路が存在しない地域との差別化を図ることができる。

#### 地域や暮らし に対する愛着 や誇りの醸成

- 芸備線は、日常生活の一部であり、日々の暮らしを象徴するものである。
  - 列車の音や振動が生活リズムを形成している。 (列車の音で時間を把握できる、列車の通過で振動を感じる等)
  - 芸備線の音や列車が走る風景は、水や空気と同じように当たり前にそこにあるものである。
- 芸備線は、地域の人々の交流を促進している。
  - 芸備線が存在することによって、世代を超えた会話や交流が生まれている。
- 芸備線は、地域の成り立ちや発展などの歴史を想起させてくれる存在である。
  - この地域は芸備線とともに栄えてきたため、芸備線そのものが地域にとってのかけがえのない資産である。
- 芸備線の存在は、地域への愛着やアイデンティティ、このまちで暮らしている実感の醸成に寄与している。
  - 芸備線の存在が、住民の地元に対する愛着やこの地域で生きているというアイデンティティの形成に寄与している。
  - 旅行等で遠方から帰ってきた際に芸備線が走る光景を見ると、地元に戻ってきたという実感が湧いてくる。
  - 芸備線の存在や芸備線とともに過ごした時間が、この地域で暮らしてきたという実感を持たせてくれる。
- 芸備線は、この地域で経験した思い出や人生のひとコマに組み込まれている。
  - 地域住民にとって、芸備線は青春や人生の一部であり、この地域での思い出が詰まった存在である。
  - 芸備線との触れ合い (列車を観に行く、列車とかけこするなど) が子どもの健やかな成長に寄与している。

## 芸備線は沿線地域の経済や観光にとって、目的地までのアクセス手段の提供、貴重な鉄道資源や情緒的風景・雰囲気による誘客と消費の創出といった価値がある

### 芸備線の価値の分類

### 価値の内容 (コメントまとめ)

地域の経済や観光にとっての価値

#### 目的地までの アクセス手段の 提供

- ▶ 芸備線の存在が、観光客の目的地選びの決定要因のひとつとなっている。
  - 芸備線の線路や駅が地図上に描かれていることが、観光客にとって目的地を検討する際の一助となっている。
  - 芸備線によるアクセスが確保されているからこそ、観光客が来訪し、地域での消費が生じている。
- ▶ 芸備線は、観光スポットまでのアクセス手段となっている。
  - 芸備線を利用することによって、沿線地域の観光地まで移動することができる。

#### 鉄道起点での 誘客と消費 の創出

- ▶ 芸備線は、鉄道ファンなどの観光客を惹きつける稀少価値の高い鉄道資産である。
  - レトロな駅舎や秘境駅があることから、鑑賞や撮影を目的とした観光客が来訪している。
  - 芸備線は、山あいを走る区間や3路線が交わる備後落合駅などがあり、全国的にも希少性の高い鉄道資源が豊富に存在する。

#### まちの 風景・情緒 の醸成

- ▶ 芸備線は、観光客などを惹きつける田園風景や情緒的雰囲気を形作っている。
  - 鉄道が田んぼの中を走る光景や車窓からの景色が、田舎としての情緒ある雰囲気を醸成している。
  - 山あいをのんびりと走る芸備線での移動には、他の交通手段では味わえない魅力がある。



# とりまとめ案（1/3）

## 1. 経緯

芸備線再構築協議会において芸備線の今後の在り方が議論される中、沿線自治体から、「大量輸送特性などの定量的な視点のみならず、鉄道が地域にもたらす日常利用の利便性向上、交流人口の増加、市民の地元への愛着や誇りの醸成など、地域活力の維持に必要な不可欠で多様な価値や役割という定性的な視点についても議論されるべき」「大量輸送特性とは異なる新しい価値や役割が正しく評価されるための議論の場を確保すべき」といった意見が表明された。

この点、この協議会は、地域交通法基本方針に定めるとおり、具体的かつ客観的なファクトとデータに基づく議論を旨とする方針に変更はないが、芸備線の可能性を追求するための調査事業 A においては、**幅広い議論を基礎とする観点から**、定量的に評価し得る価値（地域経済効果）の算出に加えて、調査事業におけるヒアリング・アンケートを通じて「**芸備線がもたらしてきた定性的価値**」を評価し、**構成員間で共通認識を確認**することとした。

## 2. 意見聴取（ヒアリング・アンケート）で得られた芸備線の定性的価値の評価

### （1）まちや住民の暮らしにとっての価値

#### （学生・高齢者等の移動手段の提供）※1

**芸備線は、学生、とりわけ高校生にとっては通学のために、高齢者等にとっては買物・通院等のために、必要な移動手段の一つとなっている。**

- 芸備線特定区間の沿線地域では、日常生活における移動の多くを自家用車に頼っている一方、現状において、芸備線をはじめとする公共交通は、学生や高齢者など運転できない住民にとって暮らしを支える地域の足となっている。
- 芸備線は、学生、とりわけ高校生にとっては、芸備線は通学のために必要な移動手段の一つとなっており、朝夕の時間帯における通学利用がみられるとともに保護者の送迎負担や家計負担等の抑制、車内での学生や地域住民の交流などの効果をもたらすといった声もある。
- 芸備線は、高齢者等にとっては、芸備線は買物・通院等のために必要な移動手段の一つとなっており、高齢者の免許返納により運転できない者の増加が今後予想される中で、芸備線の存在が将来的な暮らしの安心感をもたらしているといった声もある。

#### （安価・安全安心な移動手段の提供）※2

**芸備線は、地域住民にとって安価かつ安全・安心な移動手段の一つとなっている。**

- 芸備線の利用が家計負担の抑制につながるといった声があるほか、他の公共交通と比較して、優れた定時性が通勤・通学における安心感を与えるとともに、自家用車の運転と比較して事故の危険性が少なく安全な移動に貢献するといった声がある。

## とりまとめ案（2/3）

### （1）まちや住民の暮らしにとっての価値

#### （広域的な「つながり」の提供）※3

芸備線は、地域住民や沿線地域への来訪者にとって広域的な「つながり」を実感できる移動手段の一つとなっている。

- 芸備線は、沿線地域内のみならず、他地域との往来のための移動手段となっており、芸備線の存在を通して、他地域やその路線との広域的・物理的な「つながり」を実感し、暮らしの安心感や交流・外出促進をもたらすといった声や、自家用車・バス・タクシーを利用できない者の広域的な移動の足を確保しているといった声がある。

#### （まちの格や認知度の向上）

芸備線は、沿線地域の「格」を上げ、その認知度向上に貢献している側面がある。

- 芸備線は、沿線地域の成り立ちやその発展を見守ってきた存在であるといった声や、駅名は地域名を冠していることから「鉄道が走るまち」としての「格」が地域内外からの認知度を向上させてきたといった声がある。
- 鉄道が走るこのまちに住み続けたいという意識や、あのまちに将来行ってみたい・住んでみたいという意識を醸成しているといった声がある。
- 鉄道資源としての芸備線を活用したイベント実施や商品開発、他路線とのつながりを生かした取組など、芸備線が地域の取組の選択肢を広げる役割を果たしているといった声がある。

#### （地域や暮らしに対する愛着や誇りの醸成）※4

芸備線は、地域住民にとって地域そのものや地域の暮らしに対する強い愛着や誇り（シビックプライド）を醸成している。

- 芸備線の存在は、地域住民にとって、
  - ・その沿線風景が水や空気と同じように当たり前そこにあり、走行音や振動が日常生活の一部として生活リズムに組み込まれているもの
  - ・地域内外の他者との交流や世代間の交流を生んできたもの、古くから沿線地域の産業や暮らしを支えてきたかけがえのないもの
  - ・地域に対する愛着や、この地域で今暮らしているという実感、ひいてはこの地域で芸備線とともに過ごし、これまで生きてきたというアイデンティティの形成につながっているもの
  - ・乗車を通じた様々な人生経験が、青春や人生の色褪せない記憶として刻み込まれているものといった多くの声がある。
- このため、芸備線の存在は地域住民にとって、地域の歴史や地域住民の人生を物語る象徴的な存在として地域の暮らしや風景に溶け込んでいくとともに、その存在を通じて、この地域で生まれ育ってきたという地域に対する愛着や誇りを育んできたものと考えられる。
- また、芸備線やその沿線地域の地域資源によって育まれた地域に対する愛着や誇りは、地域住民のつながりの強化や地域そのものの魅力・ポテンシャルの向上、ひいては地域内外の交流や観光をはじめとした地域経済の活性化や人口減少対策にも寄与する可能性があると考えられる。

※3 実証事業 A において、芸備線を活用して取り組む観光・交流施策案に考え方を反映

※4 実証事業 A において、移住体験提供に関する施策案に考え方を反映



## とりまとめ案（3/3）

### （2）地域の経済や観光にとっての価値

#### （目的地までのアクセス手段の提供）※5

芸備線は、来訪者にとって目的地にアクセスするために必要な移動手段の一つとなっている。

- 芸備線が存在することにより目的地までのアクセスが可能となる場合があるといった声があるほか、芸備線の駅や路線が地図上に可視化されていることが目的地を選択する決定要因の一つとなる場合があるといった声がある。

#### （鉄道起点での誘客と消費の創出）※6

芸備線は、鉄道ファンを惹き付ける鉄道資産など、地域経済に貢献する観光資源を有しており、観光資源として活用した誘客と消費の創出が期待される。

- 駅舎をはじめとした芸備線の鉄道施設は、国鉄時代からの情緒を残す、魅力ある鉄道資産であり、現在においても、レトロな駅舎や秘境駅の鑑賞や撮影を目的とした鉄道ファンなどの観光目的の来訪者が訪れている。
- このため、芸備線は、観光産業など地域経済において、観光資源としての活用による誘客やそれに伴う消費を創出する役割があるといった声があり、更なる活用が期待されている。

#### （まちの風景・情緒の醸成）※7

芸備線を取り巻く里山資源は、まちの原風景を形づくり、まちの情緒を醸成しており、観光資源として活用した誘客と消費の創出が期待される。

- 芸備線の沿線地域は、鉄道資産のみならず、芸備線が走る光景や車窓からの風景、山間を走行する趣のある景色が、里山ならではの田園風景や情緒的な雰囲気醸成しているといった声がある。
- 鑑賞や撮影を目的として鉄道ファンが訪れているほか、ローカル志向を持つ海外や都市部からの来訪者が、田舎暮らしや食文化などを体験するツアーを通じて沿線地域に訪れている。
- このため、芸備線を取り巻く里山資源は、観光産業など地域経済において、観光資源としての活用による誘客やそれに伴う消費を創出する役割があるといった声があり、更なる活用が期待されている。

## 3. 共通認識の確認

芸備線がもたらしてきた定性的価値について、2. のとおりの意見があることを構成員間の共通認識として確認し、沿線地域のまちづくり施策等に寄与する可能性や期待される役割について、今後の協議会における議論に役立てることとする。

※5 実証事業 A において、芸備線を活用して取り組む観光・交流施策・二次交通との連携強化等に関する施策案に考え方を反映

※6,7 実証事業 A において、芸備線を活用して取り組む観光・交流施策案に考え方を反映